

2025(令和7)年度
事業報告書

2025 SANKO GAKUEN

Business Report



学校法人 三幸学園

目 次

I. 法人の概要

- 1. 基本情報 P 3
- 2. 建学の精神・使命・目的 P 3
- 3. 学校法人の沿革 P 3
- 4. 設置する学校・学科等 ～ 学生数の状況 P 7
- 5. 役員・評議員・会計監査人・理事選任機関・教職員の概要 P 1 0

II. 事業の概要

- 1. 募集活動 P 1 2
- 2. 進路決定率 P 1 3
- 3. 教育環境の整備 P 1 4
- 4. 全体計画についての報告 P 1 4
 - (1) 経営理念、ミッション・ビジョンならびに教育理念に基づき育成する
具体的な人物像とこれを実現する教育目標 P 1 4
 - (2) 法人・教学部門双方の積極的な情報公開 P 1 4
 - (3) 財務基盤の安定 P 1 5
 - (4) 人材育成・研修制度・組織改編 P 1 5
- 5. 個別計画についての報告 P 1 6
 - (1) 東京未来大学 P 1 6
 - (2) 小田原短期大学 P 1 7
 - (3) 広域通信制高等学校 P 1 9
 - (4) 支援学校 仙台みらい高等学園 P 2 0
 - (5) 東京みらい中学校 P 2 0
 - (6) 専門学校 P 2 1
- 6. その他の事業計画についての報告 P 2 6
 - (1) SANKO日本学校 P 2 6
 - (2) 国際事業部 P 2 7

(3) 飛鳥未来中等部・初等部（フリースクール）	P 2 7
(4) エクステンション事業部	P 2 8
(5) チャイルドケア事業部	P 2 8
(6) 分野別産学連携事業と職業実践専門課程への取り組み	P 2 9

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要	P 3 5
(1) 貸借対照表関係	P 3 5
(2) 事業活動収支計算書関係	P 3 8
(3) 資金収支計算書関係	P 4 3
(4) その他	P 5 2

Ⅳ. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

1. 関係する決議の概要	P 5 4
2. 体制及び運用状況の概要	P 5 4

I. 法人の概要

1. 基本情報

名称	学校法人三幸学園
住所	東京都文京区本郷三丁目23番16号
電話番号	050-5490-7320
FAX番号	03-5615-8926
ホームページアドレス	https://www.sanko.ac.jp/

2. 建学の精神・使命・目的

本学園は、創立以来、専門学校を中心とした教育活動を通じて、「技能と心の調和」を教育理念として掲げ、専門的な知識・技術の修得と、人間性豊かな心を兼ね備えた人材の育成に努めてきました。

その中で私たちは、「すべての学生・生徒には可能性がある」と信じ、一人ひとりの成長に寄り添い、夢の実現に向けて情熱をもって導く『あきらめない教育』を大切にしています。この理念に基づき実践を積み重ねることで、これまでに20万人を超える卒業生を社会へと送り出してきました。

今後もこの『あきらめない教育』を一層深化させるとともに、産学連携を活かした教育を通じて、時代の変化に柔軟に対応できる実践力を備えた専門人材の育成に取り組み、社会への責任を果たしていきます。

また、「人を活かし、困難を希望に変える」を私たちのミッションとし、「高度な専門知識と技能、人間性、そして自ら考え行動する力を備え、社会に貢献できる人材の育成」を教育の中核に据えています。教育活動と社会貢献を両輪としながら、「人を活かし、日本、そして世界を明るく元気にする」というビジョンの実現を目指していきます。

本学園が培ってきた高い技能と技術を活かしながら、時代を先読みする視点とともに、すべての学びの機会を進化させていくことで、社会と産業界の期待に応える教育機関として、さらなる飛躍を図っていきます。

3. 学校法人の沿革

年	月	沿 革
昭和60年(1985)	3月	学校法人三幸学園 設立
昭和60年(1985)	4月	日本歯科助手専門学校が学校法人立の専修学校になる
昭和61年(1986)	4月	東京医療秘書専門学校(現 東京医療秘書福祉&IT 専門学校)開校

		大阪医療秘書歯科助手専門学校（現 大阪医療秘書福祉&IT 専門学校）開校
昭和 6 2 年（1987）	4 月	仙台医療秘書歯科助手専門学校（現 仙台医療秘書福祉&IT 専門学校）開校
		名古屋医療秘書歯科秘書専門学校（現 名古屋医療秘書福祉&IT 専門学校）開校
昭和 6 3 年（1988）	4 月	札幌医療秘書歯科助手専門学校（現 札幌医療秘書福祉&IT 専門学校）開校
		福岡医療秘書歯科助手専門学校（現 福岡医療秘書福祉&IT 専門学校）開校
平成 元年（1989）	4 月	大阪医療秘書歯科助手専門学校に厚生省指定介護福祉専門課程 設置以後、介護福祉士の養成を全国で行う
平成 2 年（1990）	4 月	横浜医療秘書歯科助手専門学校（現 横浜医療秘書&IT 専門学校）開校
平成 4 年（1992）	4 月	大阪リゾートアンドスポーツ専門学校（現 大阪リゾート&スポーツ専門学校）開校
平成 7 年（1995）	4 月	仙台リゾートアンドスポーツ専門学校（現 仙台リゾート&スポーツ専門学校）開校
		福岡リゾートアンドスポーツ専門学校（現 福岡リゾート&スポーツ専門学校）開校
平成 9 年（1997）	4 月	名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校（現 名古屋リゾート&スポーツ専門学校）開校
平成 1 0 年（1998）	4 月	東京リゾートアンドスポーツ専門学校（現 東京リゾート&スポーツ専門学校）開校
平成 1 2 年（2000）	4 月	東京ビューティーアート専門学校 開校
		福岡ビューティーアート専門学校 開校
平成 1 4 年（2002）	4 月	札幌ビューティーアート専門学校 開校
		名古屋ビューティーアート専門学校 開校
平成 1 5 年（2003）	4 月	仙台ビューティーアート専門学校 開校
		大阪ビューティーアート専門学校 開校
平成 1 6 年（2004）	4 月	横浜リゾートアンドスポーツ専門学校（現 横浜リゾート&スポーツ専門学校）開校
		横浜ビューティーアート専門学校 開校
平成 1 7 年（2005）	4 月	札幌リゾートアンドスポーツ専門学校（現 札幌スポーツ&メディアカル専門学校）開校
平成 1 8 年（2006）	4 月	東京幼児教育専門学校（現 東京こども専門学校）開校
平成 1 9 年（2007）	4 月	東京未来大学 こども心理学部 開設
		札幌こども専門学校 開校

平成21年(2009)	4月	横浜こども専門学校 開校
		大阪こども専門学校 開校
平成22年(2010)	4月	札幌ブライダル専門学校(現 札幌ブライダル&ホテル観光専門学校) 開校
		東京医療秘書福祉専門学校千葉校(現 千葉医療秘書&IT 専門学校) 開校
		東京リゾートアンドスポーツ専門学校千葉校(現 千葉リゾート&スポーツ専門学校) 開校
		東京ビューティーアート専門学校千葉校(現 千葉ビューティー&ブライダル専門学校) 開校
		飛鳥未来高等学校 開校
		東京スイーツアンドカフェ専門学校(現 東京スイーツ&カフェ専門学校) 開校
平成23年(2011)	4月	広島医療秘書こども専門学校 開校
		広島リゾートアンドスポーツ専門学校(現 広島リゾート&スポーツ専門学校) 開校
		広島ビューティーアート専門学校 開校(現 広島ビューティー&ブライダル専門学校)
		大宮医療秘書福祉専門学校(現 大宮医療秘書専門学校) 開校
平成24年(2012)	4月	大宮ビューティーアート専門学校(現 大宮ビューティー&ブライダル専門学校) 開校
		大宮スイーツアンドカフェ専門学校(現 大宮スイーツ&カフェ専門学校) 開校
		東京未来大学モチベーション行動科学部 モチベーション行動科学科 設置
		東京ウェディングアンドブライダル専門学校(現 東京ウェディング&ブライダル専門学校) 開校
		横浜スイーツアンドカフェ専門学校(現 横浜スイーツ&カフェ専門学校) 開校
平成24年(2012)	12月	仙台こども専門学校 開校
		仙台ウェディングアンドブライダル専門学校(現 仙台ウェディング&ブライダル専門学校) 開校
		仙台スイーツアンドカフェ専門学校(現 仙台スイーツ&カフェ専門学校) 開校
		大阪ウェディングアンドブライダル専門学校(現 大阪ウェディング&ブライダル専門学校) 開校
		ぽけっとランドあびこ保育園 開園
		辻学園調理・製菓専門学校 設置(法人合併による)

平成25年(2013)	4月	辻学園栄養専門学校 設置(法人合併による)
		東京未来大学モチベーション行動科学部 モチベーション行動科学科 通信教育課程 開設 札幌スイーツアンドカフェ専門学校(現 札幌スイーツ&カフェ専門学校) 開校 福岡こども専門学校 開校 大宮こども専門学校 開校 名古屋こども専門学校 開校 名古屋ウェディングアンドブライダル専門学校(現 名古屋ウェディング&ブライダル専門学校) 開校 ぽけっとランド深大寺保育園 開園 ぽけっとランド江戸川台駅前保育園 開園
平成26年(2014)	4月	小田原短期大学食物栄養学科 保育学科 設置 保育学科通信教育課程 設置(法人合併による) 福岡ウェディングアンドブライダル専門学校(現 福岡ウェディング&ブライダル専門学校) 開校 ぽけっとランド南千住瑞光保育園 開園 ぽけっとランド市ヶ谷保育園 開園 ぽけっとランド明石町保育園 開園 ぽけっとランド西蒲田保育園 開園
		東京未来大学福祉保育専門学校 開校 東京こども保育園 開園 ぽけっとランド浅草橋保育園 開園
平成27年(2015)	4月	名古屋スイーツアンドカフェ専門学校(現 名古屋スイーツ&カフェ専門学校) 開校 名古屋辻学園調理専門学校 開校 千葉こども専門学校 開校 神戸元町医療秘書専門学校 開校 神戸元町こども専門学校 開校 ぽけっとランド赤羽保育園 開園 仙台こども保育園 開園
平成28年(2016)	4月	飛鳥未来ぎずな高等学校 開校 東京保育医療秘書専門学校(現 東京立川こども専門学校) 開校 東京墨田看護専門学校 設置(設置者変更による) 沖縄ブライダルアンドホテル観光専門学校 開校 沖縄こども専門学校 開校 ぽけっとランド立川保育園 開園
平成29年(2017)	4月	

平成30年(2018)	4月	千葉こども保育園 開園 沖縄こども保育園 開園 東京ビューティーアンドブライダル専門学校(現 東京ビューティー&ブライダル専門学校) 開校 札幌こども保育園 開園 広島こども保育園 開園
令和2年(2020)	4月	沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校(現 沖縄リゾート&スポーツ専門学校) 開校 沖縄ビューティーアート専門学校(沖縄ビューティー&ブライダル専門学校) 開校 ぽけっとランド西東京保育園 開園 ぽけっとランド亀有保育園 開園
令和2年(2020)	6月	ぽけっとランドさぎのみや保育園 開園
令和3年(2021)	4月	支援学校 仙台みらい高等学園 開園 東京みらいAI&IT 専門学校 開校 ぽけっとランド仙川保育園 開園 ぽけっとランド本郷保育園 開園
令和3年(2021)	10月	SANKO日本語学校綾瀬 開校
令和4年(2022)	4月	名古屋こども保育園 開園
令和6年(2024)	4月	飛鳥未来きぼう高等学校 開校 東京みらい中学校 開校 沖縄みらいAI&IT 専門学校 開校
令和7年(2025)	4月	大宮みらいAI&IT 専門学校 開校 横浜ウェディング&ブライダル専門学校 開校 東京みらい児童発達支援センター 開設

4. 設置する学校・学科等 ～ 学生数の状況

本学園は、女性の社会進出や自立をサポートするための専門教育事業からスタートし、社会貢献を事業展開の目的に掲げ、来る高齢化社会に向け、1985年3月に『医療秘書』『歯科助手』の育成を軸とした専門学校(現東京医療秘書福祉&IT専門学校)を設立しました。以後、時代ニーズの高まりから全国に、医療秘書、歯科助手、介護福祉士、保育士、スポーツインストラクター、ビューティーアーティスト、ブライダルプランナー、パティシエ、調理師を養成する専門学校66校、東京未来大学、小田原短期大学、広域通信制高等学校3校(40キャンパス)、特別支援学校、東京みらい中学校、認可保育園23園、認証保育園14園、スポーツを中心に保育を行うスポーツ保育園4園の設置・運営を行っています。各学校・園の2025年5月1日現在の入学定員、在籍数は以下のとおりです。

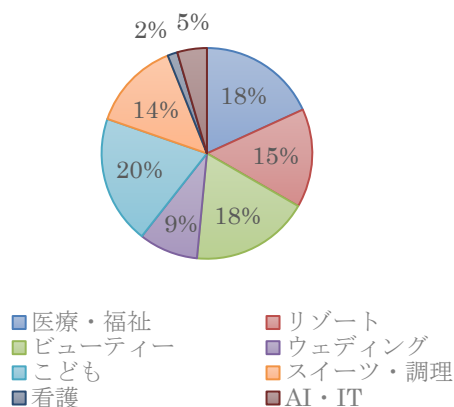
学校数・入学定員・収容定員・在籍数（2025年5月1日現在）

① 専門学校

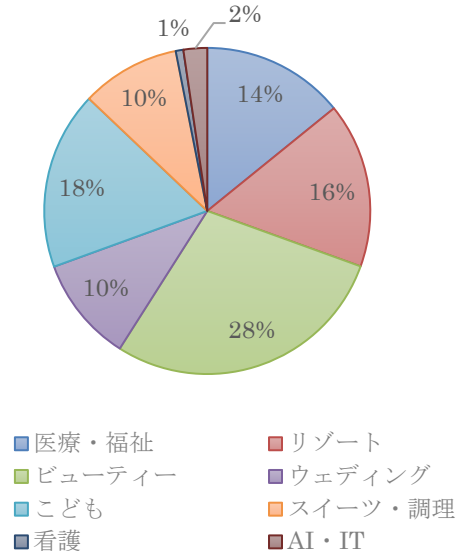
（単位：人）

学校の種類	学校数	入学定員	収容定員	在籍数
医療・福祉	12	2,790	5,853	3,889
リゾート	10	2,811	6,407	4,493
ビューティー	12	5,265	9,645	7,826
ウェディング	6	1,588	3,044	2,866
こども	13	3,181	7,731	4,844
スイーツ・調理	9	1,709	3,168	2,693
看護	1	70	210	208
AI・IT	3	400	640	645
合計	66	17,814	36,698	27,464

分野別設置数



分野別在籍数



②大学【東京未来大学】

（単位：人）

学部／学科名		入学定員	収容定員	在籍数
こども心理学部 ／こども心理学科	通学	280	1,120	1,250
	通信	75	900	1,381
	〃(3年次編入)	300		
モチベーション行動科学部 ／モチベーション行動科学科	通学	60	240	298
	通信	20	120	233
	〃(3年次編入)	20		
合計		755	2,380	3,162

③短期大学【小田原短期大学】

(単位：人)

学科名		入学定員	収容定員	在籍数
食物栄養学科	通学	80	160	144
保育学科	通学	90	230	146
	通信	2,200	4,400	4,355
合計		2,370	4,790	4,645

④広域通信制高等学校

(単位：人)

学校名	キャンパス数	入学定員	収容定員	在籍数
飛鳥未来高等学校	11	3,718	11,150	10,149
飛鳥未来きずな高等学校	15	4,210	12,610	8,206
飛鳥未来きぼう高等学校	14	5,000	15,000	3,659
合計	40	12,928	38,760	22,014

⑤ 特別支援学校【仙台みらい高等学園】

(単位：人)

学科名	入学定員	収容定員	在籍数
本科・専攻科	40	104	84

⑥ 中学校

(単位：人)

学校名	入学定員	収容定員	在籍数
東京みらい中学校	80	240	93

⑦ 日本語学校

(単位：人)

学校名	入学定員	収容定員	在籍数
SANKO 日本語学校綾瀬	55	100	72
SANKO 日本語学校東京		225	103
合計	55	325	175

⑧ 保育園

(単位：人)

種類	園数	入園定員	在籍数
認可保育園	23	1,616	1,509
認証保育園	14	457	419
スポーツ保育園	4	543	473
合計	41	2,616	2,401

⑨ フリースクール

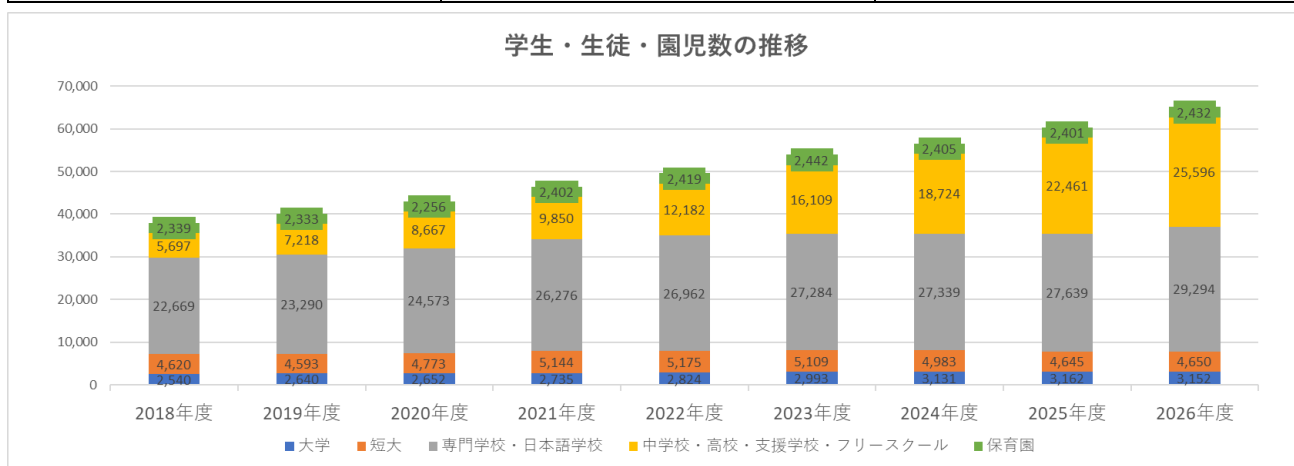
(単位：人)

学校名	設置教室数	在籍数
飛鳥未来フリースクール	7	143
東京未来大学みらいフリースクール	1	127
合計	8	270

設置する教育機関一覧（設置校・園数及び在籍者数）

(単位：人)

教育機関	設置校数・園数・教室数	在籍数
専門学校	66	27,464
大学	1	3,162
短期大学	1	4,645
広域通信制高等学校	3	22,014
特別支援学校	1	84
中学校	1	93
日本語学校	2	175
保育園	41	2,401
フリースクール	8	270
合計	124	60,308



※各年度5月1日時点の数値、2026年度は参考。

5. 役員・評議員・会計監査人・理事選任機関・教職員の概要

2026年3月31日現在の役員および評議員ならびに教職員の概要は次のとおりです。

【役員】

定員数：理事9名以上～11名以内、監事2名以上～3名以内

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	鳥居 敏	2025年6月16日	常勤	
理事	塚本 伸一	2025年6月16日	常勤	東京未来大学長

理事	早崎 裕治	2025年6月16日	常勤	大宮・川越・高崎・宇都宮・千葉・広島各地区、国際事業部、人財部、秘書室、エクステンション事業部
理事	村田 映子	2025年6月16日	常勤	大阪・神戸・京都・奈良各地区、教育開発部、同窓会、SC（スイーツ&カフェ分野）委員会、調理小委員会
理事	森岡 孝之	2025年6月16日	常勤	福岡・熊本・沖縄 各地区、東京未来大学、広報部、企画開発部、モチベーションマネジメント協会、小田原短期大学通信教育課程新学科設立準備室、BA（ビューティーアート分野）委員会、AI委員会、広報委員会
理事	尾崎 克明	2025年6月16日	常勤	横浜・静岡 各地区、高等学校、小田原短期大学、特例中学校、栄養小委員会
理事	上野 奈初美	2025年6月16日	常勤	小田原短期大学長
理事	細田 英明	2025年6月16日	非常勤・学外者	弁護士
理事	佐々木 修	2025年6月16日	非常勤・学外者	弁護士
監事	奈須 喜代志	2025年6月16日	常勤	
監事	伯母 治之	2025年6月16日	非常勤・学外者	弁護士
監事	石川 淳子	2025年6月16日	非常勤・学外者	税理士

【評議員】

定員数：10名以上～12名以内

氏名	就任年月日	主な現職等
山内 陽介	2025年6月16日	法人職員
前川 祐一	2025年6月16日	法人職員
會田 隆太	2025年6月16日	法人職員
大石 由恵子	2025年6月16日	卒業生
角山 剛	2025年6月16日	東京未来大学名誉学長
吉田 眞理	2025年6月16日	小田原短期大学名誉学長

篠原 陽子	2025年6月16日	元設置校学校長
萩原 知子	2025年6月16日	元設置校学校長
干場 耕司	2025年6月16日	税理士
福岡 みつゑ	2025年6月16日	税理士

【会計監査人】

定員数：1名以上～2名以内

氏名	就任年月日	主な現職等
杉山 七美	2025年6月16日	公認会計士
遠藤 健太郎	2025年6月16日	公認会計士

【理事選任機関】

機関名	構成
評議員会	全ての評議員

【教職員】

(単位：人)

区分	種類	人数	区分	種類	人数
教員	本 務	2,419	職員	本 務	1,627
	兼 務	2,480		兼 務	312

※平均年齢 教員41.82歳 職員34.95歳

Ⅱ. 事業の概要

1. 募集活動

募集活動では、広報活動の強化により、2025年度の入学者数は以下のとおりとなりました。

【分野別入学者数の推移】

(単位：人)

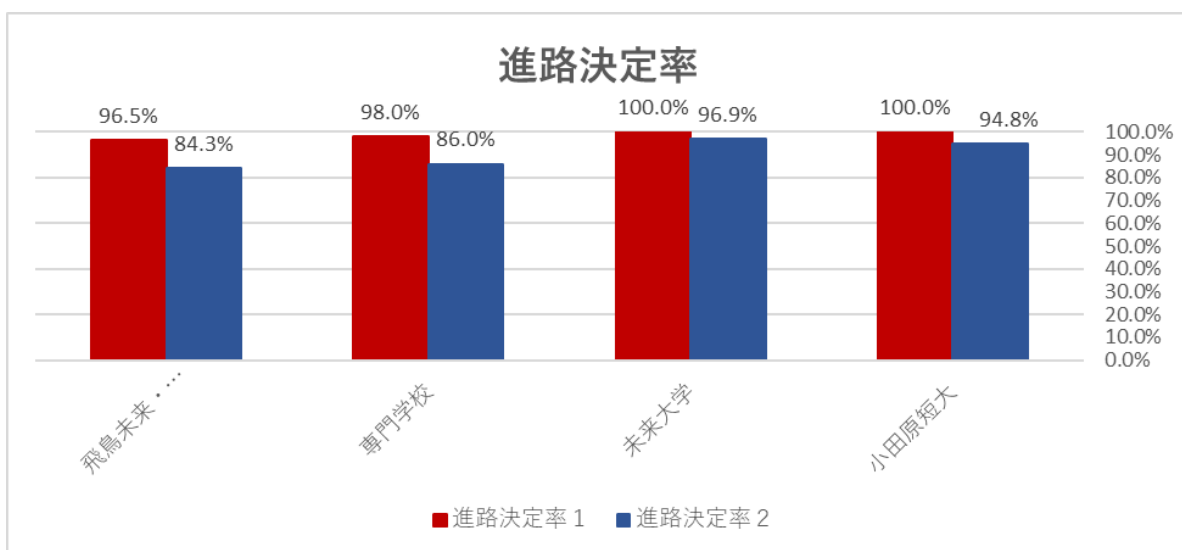
分野		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
大学	通学	396	373	398	419	412	384
	通信	1,174	1,214	1,332	1,375	1,521	1,436
短期大学	通学	205	202	183	140	152	190
	通信	2,424	2,424	2,483	2,246	2,119	2,235
専門学校・各種学校		13,430	13,712	14,085	13,838	13,999	15,679
高等学校・特別支援学校		4,702	6,502	8,544	8,476	13,858	15,135
中学校		-	-	-	26	25	53
合計		22,331	24,427	27,025	26,520	32,086	35,112

※各年度5月1日時点の数値。2026年度は参考。

※大学・通信の入学者数には、前年度秋入学、当年度春入学、編入学・転入学、科目履修生が含まれます。高校の入学者数は、前年度5月から当年度4月までの入学となります。

2. 進路決定率

本学園では、全設置校に担任教員やキャンパスアドバイザー（大学）を配置し、学生・生徒の進路決定について全面的にサポートをしています。また、卒業後のフォローアップについても、同窓会組織との連携をはかり、卒業生に対して子育て支援、就職・転職、スキルアップ支援など、卒業生のライフイベントに合わせた様々な支援を行っています。飛鳥未来高等学校、飛鳥未来きずな高等学校、飛鳥未来きぼう高等学校の進路決定率は、96.5%、進学率も75.1%と通信制高等学校としては高い水準を維持しています。専門学校各校については進路決定率98.0%、東京未来大学については進路決定率100.0%、小田原短期大学については進路決定率100.0%となっています。※本文での進路決定率は、進路希望者の進路決定者となります。



進路決定率1：進路決定者／進路希望者

進路決定率2：進路決定者／卒業生数

3. 教育環境の整備

2025年度においては、土地関連支出1,381百万円、建物建築関連支出1,099百万円、設備・備品関連支出259百万円、修繕等264百万円、計3,003百万円の教育環境の設備を実施致しました。

(単位：百万円)

項目	金額
土地関連支出	1,381
建物建築関連支出	1,099
設備・備品関連支出	259
修繕等	264
計	3,003

4. 全体計画についての報告

(1) 経営理念、ミッション・ビジョンならびに教育理念に基づき育成する具体的な人物像とこれを実現する教育目標

教育体系の再構築 ～三幸学園の原点『あきらめない教育』～

1985年3月に法人が設立され、専門学校の運営を中心に『技能と心の調和』を教育理念、『素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材』を目指す人材育成像として、20万人を超える卒業生を社会に輩出してきました。また、教育および社会貢献活動を通じて『人を活かし、困難を希望に変える』というミッションの実現を目指し、創立以来培ってきた教育の原点である『あきらめない教育』を明文化し、教職員のみならず学生および保護者に広く発信しています。

(2) 法人・教学部門双方の積極的な情報公開

学校評価の推進

① 専門学校

本学園では、社会的使命を果たすため、全専門学校において自己評価を実施するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、保護者、近隣住民、高等学校教員、実習および就職に関係する企業等からの意見を踏まえ、教育活動の改善および社会への貢献度向上に取り組んでいます。また、これらの評価結果は報告書として取りまとめ、ホームページ上で公表しています。さらに、教育プログラムの充実および質的向上を図るため、教育開発部を中心に、各校の自己評価および学校関係者評価の分析・検討を推進しています。

② 東京未来大学

東京未来大学では、教育研究の向上を図り、大学の使命・目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を実施するとともに、学校教育法第109条第2項に規定する認証評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）による認証評価を受け、その結果を公表しています。

当年度は、同機構の定める基準に基づき点検項目の自己評価を改めて実施するとともに、2020年度の認証評価結果を踏まえた改善事項に取り組み、それらの結果を大学ホームページにて広く公表しています。今後も、教育研究の向上に資する改善活動および内部質保証体制の強化に継続的に取り組んでいきます。

また、組織運営の透明性および効率性の確保を目的として、「学校法人三幸学園ガバナンス・コード 東京未来大学版」に則り、各項目の適合状況を毎年度自主的に点検し、その結果を公表しています。適切なガバナンス体制のもと、大学の意思決定プロセスの適正化を図るとともに、教育・研究の質の向上およびステークホルダーとの信頼関係の強化を通じて、より良い教育環境の整備に取り組んでいます。

(3) 財務基盤の安定

18歳人口が減少傾向にあり、加えて出生率が著しく低下している中であっても、学校法人の使命である教育・研究への投資と、施設設備の維持・更新を両立できる財務基盤を構築しています。

経営環境がこれまで以上に厳しくなっていくことが予想される中において、2025年度では事業活動収入64,447百万円、経常収支差額10,066百万円と安定した収入を確保しています。支出面においては新人事制度に伴う適正な人員配置に努め人件費の適正化を図るとともに、施設設備の適正稼働を図るべくファシリティマネジメントを強化しています。

今後も学生確保及び新分野創出や、非学生生徒納付金収入の獲得等、更なる財務基盤の安定に向けて努めていきます。

(4) 人材育成・研修制度・組織改編

社会や学校を取り巻く急激な環境変化に対応した戦略的な人材育成を目的として、教職員がそれぞれの専門性やスキルを最大限に発揮し、学園が求める人材像へと成長できるよう、以下のとおり人事制度の効果的な運用に取り組みました。

① 人事制度の理解・浸透

- ・地域別人事制度研修および目標設定ワークショップの実施：各地域における制度への認識を統一し、実効性の高い目標策定を支援しました。

② 研修体系の高度化

- ・タレントマネジメントシステムを活用した研修受講履歴の一元管理：個々の育成状況を可視化し、継続的な人材育成に資する基盤を整備しました。
- ・選択制研修の拡充：キャリア志向や業務特性に応じた多様な学習機会を提供し、自律的な能力開発を促進しました。

③ 人事情報を活用した戦略的配置

- ・人事データの配置への活用：教職員個々のキャリア志向、適性検査、組織診断結果等のデータを統合し、エビデンスに基づく戦略的な人材配置を推進しました。
- ・人員不足状況の一元管理：各部門の人員状況を可視化し、組織全体として機動的なリソース配分が可能な体制を構築しました。

5. 個別計画についての報告

(1) 東京未来大学

① 東京未来大学

～ MIRAI FES. 2025 ～

MIRAI FES. 2025は、「Puzzle～未来のために今、繋がる～」をテーマに掲げ、学生一人ひとりをパズルのピースに見立て、人とのつながりを大切にしながら、MIRAI FES. という形を創り上げることを目的として実施しました。

DAY1・2（11月8日（土）・11月9日（日））の文化祭部門では各クラスにて出展・出店を行い、DAY3（11月11日（火））の体育祭部門では競技、応援団による演舞、各チームのパフォーマンスを披露しました。2025年度の文化祭部門では、芸能人企画や有志企画、他大学との連携企画など幅広いステージを実施しました。体育祭部門では、新競技の実施や、前年度と同様、地域連携企画を行いました。両部門を通して、学生自身が自分の能力に合わせて挑戦し、成長できるプロジェクトとして活動を行いました。



② 心理臨床センター こころの相談室

2025年4月、地域住民のこころの健康の維持・増進および心の問題の予防と早期支援を目的として、「こころの相談室」を開設しました。主に未就学児から中学生までの子どもとその保護者を対象に、発達や子育て、不登校、いじめ等に関する心理相談および心理アセスメントを実施し、専門的立場から支援を行っています。必要に応じて関係機関と連携しながら、地域に根ざした社会貢献事業として取り組むとともに、心理臨床に関する専門的知識・技能を有する人材の養成にも寄与しています。

③ こどもみらい祭

地域連携推進委員会が中心となり、足立区内の近隣住民の方が参加いただける「こどもみらい祭」を7月12日（土）に開催しました。近隣の小学校と連携し、「森のお祭り」をテーマに、紙などの資材を使用してお花屋さんやにんじん屋さんなどのゲームや制作する企画を行いました。また、パフェの調理と実食体験を実施しました。当日は688名の来場者があり、地域の方々に楽しんでいただく機会となりました。



④ クリスマスフェスタ

地域連携推進委員会が中心となり、足立区内および近郊在住の方が参加いただける「クリスマスフェスタ」を12月20日（土）に開催しました。学生による劇の上演や、外部演奏者を招いたスティールパンおよびマリンバデュオの演奏を実施しました。あわせて、サンタさんのお手伝いゲームや手持ちベル、飾り用スノーマンの制作など、クリスマスにちなんだ企画も行いました。また、リサイクル資材を活用した装飾を施すなど、足立区の環境基金を活用したイベント運営を行いました。



(2) 小田原短期大学

① 小峰祭

小峰祭は、「地域の皆さまとの交流」「学修成果の発表」「学生の主体的活動の促進」および「本学の認知向上」を目的として開催しています。2025年度は、「笑夢共進（しょうむきょうしん）」をテーマに掲げ、地域の方々、学生、教職員がともに笑顔で夢に向かって歩む学園祭となることを目指して実施しました。

当日は、食物栄養学科および保育学科による学科企画として、レストランやこどもの室内あそびコーナーの出展、パネルシアターの実施など、多様な催しを行いました。また、同日に飛鳥未来きずな高等学校の文化祭も開催され、短大生と高校生が連携しながら各種企画や出店を展開しました。後夜祭では、学生有志および教職員によるダンスや歌、クラス対抗ゲーム、パフォーマンスコンテストを実施し、会場は大いに盛り上がりを見せました。学園祭全体を通して、来場者との交流を深めるとともに、学生の主体的な活動を促進する機会となり、盛況のうちに終了しました。



② 子育て支援センターの運営

2021年度より、小田原市の指定管理事業として「おだびよ子育て支援センター」を運営しています。本センターは、小田原駅直結の複合施設「ミナカ小田原」6階に位置し、地域の乳幼児とその保護者が安心して利用できる子育て支援の拠点です。図書館と併設された施設として、地域に開かれた環境の中で、子育て支援に取り組んでいます。



③ 通信教育スクール：千歳・登米・延岡・名護・宮古島・横浜関内・大阪

各自治体と協定を締結し、通信教育によるスクーリング施設を設置しています。学生は、幼稚園教諭二種免許や保育士資格の取得を目指し、自宅での通信教育による学習に加え、各地域に設置されたスクーリング会場において対面授業を受講しています。なお、2026年4月より、新たに大阪にスクーリング会場を設置いたします。



④ 小田原市との連携協定およびSDGsパートナーシップ

小田原市との連携協定の締結をはじめ、「おだわらSDGsパートナー」および「小田原市女性活躍推進優良企業」の認定を受けるなど、人材育成および学術の向上を通じて地域の発展に寄与することを目的とした取組を推進しています。あわせて、各種イベントへの参画等を通じ、地域貢献に努めています。



⑤ 乳幼児研究所

小田原短期大学が設置する乳幼児研究所では、小田原市の要請を受け、「小田原市幼児教育アドバイザー事業」を受託しています。また、研究所の活動として、「ペアレント・トレーニング」、「絵本プロジェクト」、「現職保育者研究会」、「支援教育実践研究会」、「小児衛生研究会」、「幼児教室」等を実施し、地域の専門職および一般の方々と連携しながら、多様な研究・研修活動に取り組んでいます。



(3) 広域通信制高等学校（飛鳥未来高等学校・飛鳥未来きずな高等学校・飛鳥未来きぼう高等学校）

① ASUFES（体育祭）

飛鳥未来高等学校・飛鳥未来きずな高等学校・飛鳥未来きぼう高等学校の生徒が、キャンパスの枠を越えて団に分かれ、白熱したリレーや玉入れなどの各競技に取り組みました。当日は大いに盛り上がり、チームメイトを全力で応援する姿が見られました。各団のパフォーマンスでは、パフォーマンスリーダーを中心に、立ち位置や照明の構成を工夫しながら完成度を高めていました。開催に向けた準備の過程においても、意見を出し合う姿や、寄り添いながらダンスを教え合う姿が見られ、仲間と協力することの大切さを学ぶ貴重な機会となっています。



現在は、学校規模を踏まえ、地域ごとにキャンパス合同で実施しています。

② ASUKA BREAK of IMPACT（ダンスコンテスト）

飛鳥未来高等学校・飛鳥未来きずな高等学校・飛鳥未来きぼう高等学校の首都圏内14キャンパス合同で、「ASUKA BREAK of IMPACT」を実施しました。各キャンパスの厳しい選考を勝ち抜いた代表1チームが集い、生徒一人ひとりの思いが込められた魅力あふれるパフォーマンスが披露されました。ダンスにとどまらず、生徒の個性が光る多彩な表現に触れる機会となりました。



③ 文化祭

参加生徒がチームに分かれ、企画から当日の運営までを生徒主体で作っています。模擬店では、ご来場者に満足いただけるよう、本格的なおもてなしを提供しました。舞台発表においても、ダンスや演劇など趣向を凝らしたプログラムが披露され、会場は大いに盛り上がりました。運営や発表に至るプロセスは、課題解決能力や協働の精神を実践的に養う貴重な機会となっています。自らの役割を果たし、学習成果を形にする経験は、生徒の自信の醸成につながり、さらなる成長への原動力となっています。



(4) 支援学校 仙台みらい高等学園

開校5年目となる2025年度は、本科68人、専攻科16人、計84人の在籍生徒数となりました。年度の重点目標として、①「協働的な学び」の充実によるグラデュエーション・ポリシーに資する人材育成の推進、②専門人材育成および広報の観点を踏まえた地域連携の促進、③「5年一貫教育」における専攻科の意義・価値の明確化を掲げました。その結果、本科20人（一般就労・障害者雇用9人、福祉サービス3人、本校専攻科への内部進学7人、障害者職業能力開発校進学1人）、専攻科8人（一般就労・障害者雇用4人、福祉サービス4人）の卒業・修了生を輩出し、就労者は宮城県内各地域で活躍しています。また、本科から専攻科への内部進学者は7人となり、「5年一貫教育（本科3年＋専攻科2年課程）」の意義や価値への理解が進むとともに、障害者における高等教育の機会確保および目的・ニーズに応じた教育活動の実現につながっています。



2025年度の実績を踏まえ、2026年度は主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、アセスメントの体系化および運用を含め、入学から就労移行まで一人ひとりに応じた個別最適な学びによる授業改善を推進します。あわせて、障害者の高等教育およびリカレント教育に関する理解啓発に努めるとともに、生涯学習体制の整備によるワークライフブレンドを一層促進し、卒業後も地域に貢献しながら、よりよく生活し、輝き続けられる人材の育成に取り組みます。さらに、芸美コースの生徒・卒業生が、全国障害者技能競技大会（アビリンピック）ネイル施術種目に3年連続で出場しています。加えて、卒業生と在校生による地域イベントへのボランティア参加など、地域貢献と生活の質の向上を両立し、ワークライフブレンドの実現につながっています。



(5) 東京みらい中学校

① キャリア教育を踏まえたソーシャルスキルトレーニング（SST）について

本校では、人や社会との関わりを学ぶ「人間関係構築に関する教育」と、将来を見据えた「キャリア教育」を柱として、学習カリキュラムを編成しています。

「キャリア教育」においては、本学園が運営する姉妹校において特別授業を実施し、取引先企業や地域の方々の協力を得て、実社会に触れる機会を提供しました。



また、地域交流の一環として、足立区を中心に活躍する専門職の方々を講師として招き、職場体験型の授業を実施しました。具体的な仕事内容や仕事のやりがいについて学ぶことで、生徒が自身の将来について考える契機となりました。

② みらいスポレク（スポーツ行事）

東京みらい中学校において、初のスポーツ行事「みらいスポレク」を実施しました。全校生徒および教職員を赤団・白団の2団に分け、スポーツの3つの観点である「する・見る・支える」を共通認識として、全6種目を実施しました。運営にあたっては、姉妹校である東京リゾート&スポーツ専門学校の学生の協力を得て、円滑な進行および行事全体の活性化に寄与しました。



③ みらいフェス（文化祭）

生徒が主体となり、第1回みらいフェス（文化祭）を9月21日（土）に実施しました。各クラスにおいてブース（模擬店）の企画・運営を行い、生徒同士が協力しながら準備を進めることで、主体性や協働性を育む機会となりました。当日は、学校関係者に加え、足立区内の小中学校関係者や翌年度入学希望者等、約300名が来場し、行事は盛況のうちに実施されました。



(6) 専門学校

① アクティブラーニング（AL）の強化

本学園では、学生が能動的に学習するアクティブラーニング（AL）を全校で推進・強化するため、各校の教務主担当者を対象とした研修を実施しています。

また、授業力の向上を図るため、学内の知見を集約した「授業実践ガイドブック」を作成し、教員向けeラーニングコンテンツとして展開することで、教員が自己研鑽を行う環境の整備を進めています。



② 学生アンケートの実施および活用の強化

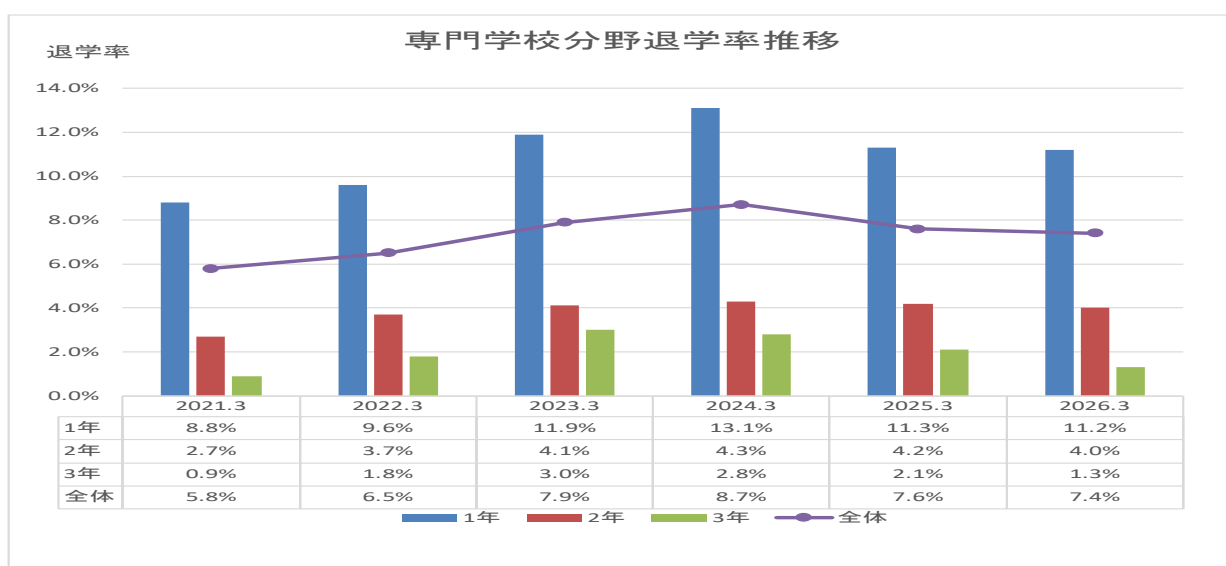
本学園では、学生を対象に授業および学校生活に関する各種アンケートを実施しています。これらの結果について分析を行い、教育活動の改善に活用しています。

③ 退学率低減への挑戦

学生を取り巻く環境は多様であり、経済的要因や人間関係、心身の変化等により、休学・退学に至るケースが見られます。

本学園では、学生が安心して修学し、充実した学生生活を送ることができるよう、2013年度より専門学校における退学率低減に向けたプロジェクトチームを設置し、要因の把握および環境改善に取り組んでいます。

その結果、2025年度における本学園の専門学校の退学率は7.4%となり、前年度比0.2ポイント改善しました。引き続き、退学率の低減に取り組みます。なお、東京未来大学は2.4%（除く通信）、小田原短期大学は2.4%（除く通信）、飛鳥未来高等学校4.7%、飛鳥未来さずな高等学校4.0%、飛鳥未来さぼう高等学校4.4%の退学率となっています。



④ 同窓会組織の再構築

本学園では、法人設立以来、20万人を超える卒業生を社会に輩出し、多くの現場で活躍しています。卒業生および在校生のコミュニティ活性化を目的として、2014年4月に専用ホームページ「Sanko Link」を開設し、近年は公式LINEやInstagramを活用した情報発信を行っています。これらの取組により、卒業生間の交流機会が拡充し、各校で実施される同窓会イベントへの参加者増加につながっています。

⑤ 学校行事の充実

本学園では、教育理念である「技能と心の調和」の実現に向け、年間を通じて各種行事を実施しています。これらの行事は、集団活動を通じて目標達成に向けて取り組む経験や達成感の共有を促し、学生の成長機会として位置付けています。



【専門学校全体】

～ 三幸フェスティバル ～

三幸フェスティバルは、本学園の専門学校および大学における主要行事の一つであり、地域によっては最大7,000名が参加しています。各校の有志により実行委員会が組織され、学生が主体的に企画・運営を担い、パフォーマンスや競技等の多様なプログラムが実施されています。また、2025年度は事後アンケートを実施し、行事を通じた成長実感および満足度の把握を行った結果、9割以上の学生が成長を実感したと回答しています。



【医療秘書専門学校】

～ 医療事務シミュレーションコンテスト ～

「医事業務実践」等の授業を通じて日々培ってきた対応力の成果を発揮する場として、「シミュレーションコンテスト」を実施しています。医療現場を想定し、実際に起こり得るさまざまな場面への対応を、実践形式で披露します。表情や話し方、電話対応、クレーム対応に加え、医療事務として習得した保険・医学知識を活かし、患者等の状況に応じた臨機応変な対応力の向上を目指しています。本コンテストは、実践的な対応力を高めることで、就職後すぐに即戦力として多様な場面で活躍できる人材の育成を目的とした行事です。また、スケールメリットを活かし、2024年度より全国大会として実施しており、学生にとってさらなる成長の機会となっております。



【リゾート&スポーツ専門学校、スポーツ&メディカル専門学校】

～ スポーツデザインコンペティション ～

本行事は、日頃の学びを通じて培ったスポーツおよびヘルスケア分野に関する「知識・技術」、「アイデア」、「パフォーマンス」等の成果を、実践的な形でデザインし発表する機会として、コンテスト形式にて実施しているものです。2025年度は、「学びの連動科目披露」および「ボディメイクコンテスト」の二部構成とし、実践的・実技的なパフォーマンスを中心に展開いたしました。観覧者にとっても理解を深める機会となるとともに、活気あふれる行事となりました。



【ビューティーアート専門学校】

～ ビューティーショー ～

これまでに学び、習得してきた美容技術やセンス、想像力のすべてを注ぎ込む、学びの集大成となる大舞台です。学生の中から選出された実行委員を中心に、企画立案からモデルウォーク、ヘア・メイク・ネイル、衣装、脚本、振付、音響、照明に至るまで、すべてを学生自身がトータルプロデュースする行事であり、準備には約3か月を要しています。本ビューティーショーは毎年、在校生に加え、多くの保護者や高校生にもご観覧いただいております。練習の成果と学生・教職員の想いが結集するフィナーレは、大きな見どころの一つです。



【こども専門学校】

～ 保育発表会 ～

地域の保育園・幼稚園や一般家庭の子どもたちを招き、劇・歌・合奏を披露する行事です。半年以上かけて準備を行い、授業や実習で培った知識と技術を活かして、全在校生が一体となって取り組みました。子どもたちと舞台上の学生と一緒に歌や踊り、掛け合いを楽しみ、多くの笑顔と歓声が会場内にあふれるイベントを実施しました。



～ 国内研修 ～

本学では、学生の実践的な学びの深化と視野の拡大を目的に、国内研修を実施しました。三幸学園が運営する保育現場の視察を通じて理解を深めるとともに、日本文化や多様な体験に触れ、就職活動や実習への意識向上を図りました。また、全国のこども専門学校の学生との交流により、相互理解と学習意欲の向上にもつながりました。主な内容として、浅草寺の見学、チームラボの体験、東京ディズニーランドの視察、からくり屏風の制作、もんじゃ体験、キッズ大陸の施設見学等を実施しました。本研修は、今後の学修や進路選択に資する有意義な機会となりました。



【ウェディング&ブライダル専門学校】

ブライダル&ホテル観光専門学校

ビューティー&ブライダル専門学校

～ ウェディングプロデュース ～

授業で学んだ知識と技術の集大成として、一般公募の中から選ばせていただいた新郎新婦の結婚式をプロデュースします。最初のお打ち合わせから当日の運営まで、すべて学生がサポートします。本物の新郎新婦の想いに寄り添い、それを一緒に形にしていくことで、プロとしての自覚を養うことができる貴重な経験となります。



【スイーツ&カフェ専門学校、辻学園調理・製菓専門学校、辻学園栄養専門学校】

～ 全国スイーツ&カフェコンテスト ～

全国の同分野の姉妹校に在籍する代表学生による、製菓・製パン・調理・バリスタのコンテストです。本コンテストは、製菓・製パン・調理の基礎技術を競う「ベーシック部門」、想像力および味の再現性を競う「フリー部門」、珈琲の抽出技術を競う「バリスタ部門」により構成されています。各校において予選会を実施し、選出された代表学生1名が全国大会に出場します。参加学生は、専門技術の向上に加え、就職後も社会で通用する実践力を発揮しています。また、審査員には各業界を代表する方々にご協力いただいております。プロフェッショナルの視点による評価を受けることで、学生の目的意識の醸成にもつながっています。



～ 調理師養成施設調理技術コンクール ～

名古屋辻学園調理専門学校在校生が、全国大会である「第41回調理師養成施設調理技術コンクール（グルメピック）」において、最高賞である内閣総理大臣賞を受賞しました。上級調理師科2年生の小原由渚さんは、学内選抜および地区大会を経て全国大会に出場し、出場者55名の中で最優秀の成績を収めました。あわせて、本校から出場した戸星若菜さんおよび足立瑞季さんも後援団体長賞を受賞しました。本成果は、日々の授業に加えた自主練習および研究の積み重ねによるものであり、本校の教育成果を示すものです。



～ 食育推進全国大会「おおさかEXPOヘルシーメニュー」コンテスト ～

辻学園栄養専門学校において、2025年2月19日（水）開催の第19回食育推進全国大会「おおさかEXPOヘルシーメニュー」コンテストにて、本学園の学生が考案した「見た目たこ焼き！甘酢餡かけ丼」が最優秀賞を受賞しました。本受賞を契機として、ファミリーマートより商品化され、「見た目たこ焼き？だし餡かけ丼」として、2月18日から3月10日まで関西エリアの店舗にて期間限定販売されました。また、大阪府知事出席のもと実施された大阪府庁での記者会見において、本校の学生および教員が開発の工夫や取組内容を発表しました。本商品は、野菜を取り入れたバランスの良いメニューとして、大阪府のV.O.S基準（野菜・油・塩）を満たす内容で展開されたものです。



【AI&IT専門学校】

～ 卒業制作発表会 ～

社会課題の解決をテーマに、2年間で習得したIT知識・スキルを活用し、チームごとにシステムおよびWebアプリケーションの開発を行い、企業・業界関係者に対してプレゼンテーションを実施しています。開発にあたっては、チームビルディングから要件定義、基本設計、開発、テスト、発表まで一連の工程を経験し、実際のビジネスに即した開発プロセスを学んでいます。これらの取組を通じて、社会に貢献できる実践的な人材の育成を推進しています。



6. その他の事業計画についての報告

(1) SANKO日本語学校

近年、諸外国からの留学生数は増加しており、政府は2033年までに40万人の留学生受入れ目標を掲げています。さらに、外国人の就労条件の緩和に伴い、東南アジアをはじめとする諸外国から日本への留学希望者は、今後も一層増加することが見込まれます。このような社会的背景を踏まえ、本学園は2016年4月にSANKO日本語学校東京、2021年10月にSANKO日本語学校綾瀬を開校しました。本校では、日本および国際社会で活躍できる人材の育成を



目標とし、日本語能力の習得にとどまらず、本学園の教育理念である「技能と心の調和」および「あきらめない教育」のもと、人間力と日本社会で求められるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいます。具体的には、日本の礼儀や文化・習慣の理解を深める教育に加え、三幸学園グループのスケールメリットを活かし、姉妹校等との教育連携による職業体験や進路説明会を実施するなど、日本の魅力発信および卒業後のキャリア形成支援に注力してきました。

2025年度は280名の学生が在籍し、日本語能力の習得に加え、日本語学習成果発表会「SANKOステージ」を実施しました。また、姉妹校での授業体験や職業体験を組み込んだ韓国からの短期留学生11名を受け入れ、実践的な学びの機会を提供しました。

今後も、三幸学園のミッション「人を活かし、困難を希望に変える」およびビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」の実現に向け、国際部門であるSANKO日本語学校として、社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

(2) 国際事業部

国際海外事業グループは、インターンシップ事業を中心に、5か国で累計18の教育機関（大学・短期大学等）、29学部との提携を実施しました。今後はさらに新規提携を推進し、日本への留学支援やオンラインでの日本語教育事業などを展開してまいります。

国際外国人材サポートグループは、45社の企業を開拓し、210名の海外学生をインターンシップ生として受け入れました。今後も本事業を推進するとともに、登録支援機関としての稼働を開始し、海外からの特定技能生や留学生の就労サポートに注力してまいります。

留学生サポートグループは、学校現場における煩雑化する在留資格更新手続きや日本語能力向上の促進等を側面から支援し、留学生が様々な行事や交流を通じて充実した学校生活を送れるよう取り組んでおります。

また、卒業後に日本での就労を希望する留学生については、国際外国人材サポートグループと連携し、一人ひとりのニーズに応じた就労支援体制の構築に取り組んでおります。

(3) 飛鳥未来中等部・初等部（フリースクール）

不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり、深刻な社会課題となっています。このような状況を踏まえ、本学園では、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を実現することを目的として、小学4年生から中学3年生を対象としたフリースクールを全国8拠点にて運営しています。

2026年度には、新たに千葉県において拠点を開設し、事業の拡充を図ってまいります。教育内容としては、行事や課外活動、姉妹校である専門学校への職業体験訪問等を通じて、自主性や好奇心の育成に取り組んでいます。また、一人ひとりの状況や特性に応じた支援を行い、個々のペースに寄り添った教育環境の提供に努めています。進路指導にも重点的に取り組んでおり、卒業生は希望する進学先へ進学し、各分野で活躍しています。



(4) エクステンション事業部

国は「空の産業革命」の枠組みのもと、無人航空機（ドローン）を新たなモビリティ（移動・物流手段）およびDXツールとして位置付け、積極的な推進・支援を行っています。測量・点検分野に加え、ドローン物流の事業化や災害対応など、幅広い領域において利活用が進展しています。

実践的職業教育に取り組む本学では、2023年3月に国土交通省認定の登録講習機関として「みらいドローンスクール」を設立し、ドローンの健全な社会実装を支える無人航空機操縦士の育成に取り組んでいます。ドローンの国家資格である「一等・二等無人航空機操縦士」の取得に向けた基本講習や限定変更（目視外・夜間）については、航空業界と連携した実践的な講習を実施しています。さらに2025年度には、物資輸送や災害支援において有用な大型ドローン（最大離陸重量25kg以上）に対応したライセンス（限定解除）講習を開始しました。

今後も、本学の職業教育および専門人材育成の知見を活かし、自治体や関連団体との連携を通じて付加価値の高い独自講習やドローン活用支援を推進し、業界ニーズに応える専門人材の育成に取り組んでまいります。



(5) チャイルドケア事業部

児童福祉事業の積極的な推進

本学園の児童福祉事業は、2008年4月東京都認証保育所の開園以降、2012年4月認可保育園「ぼけっとランドあびこ保育園」2013年7月にはスポーツ教育コミュニティ事業「キッズ大陸よこはま中川園」を開園（中川園は2023年4月に川崎市多摩区へフロンタウン生田園として移転）。2026年4月時点で、認可保育園23園、認証保育園14園、スポーツ教育コミュニティ事業4園、計41園の保育施設の運営を行っています。

① ぼけっとランド・こども保育園

ぼけっとランド・こども保育園では、「個を受容し、共感するなかで主体性を育む」を保育理念に掲げ、保育目標に基づき、一人ひとりの個性や発達、能力、思いを大切にしたい保育を実践しています。

また、園長を中心とした「保育内容検討組織（こども未来会議）」を設置し、保育士の「保育する力」を引き出し、実践へとつなげています。

一方で、保育士確保が社会的課題となっていることから、職員の長期就労を目的に、処遇改善や福利厚生充実にも取り組んでいます。

② キッズ大陸

キッズ大陸は、東京、埼玉、神奈川で4園の認可外保育施設、1園の小規模認可保育園を展開し、特色のある施設環境の中で、「保育園」「クラブ（習い事）」「学童保育」の3つの分野を通じた一貫教育で子ども達の成長をサポートする環境を整えています。「ここは子ども達の可能性が

無限に広がる夢大陸！こども達を大きく大きく成長させたい！！」を教育コンセプトに掲げ、スポーツプログラムを中心に様々な教育プログラムを取り入れ、「やればできる、やったらできた」という成功・達成感をこども達と共有し、以下の教育目標のとおり、「心技体知」といった心身共に健康で理想的な成長と、将来の可能性を広げるスポーツ教育コミュニティを目指しています。

【教育目標】

- ・みずから考えて行動できる子ども
- ・素直な心と思いやりのある子ども
- ・チャレンジ精神を持ち、最後までがんばる子ども
- ・明るく元気で、丈夫な身体を持つ子ども



また、2019年10月より施行された「幼児教育・保育料無償化」の実施により、入園家庭の間口が広がったことで、子育て支援をはじめ多種多様な教育機会の提供という責務を一層果たしています。

【キッズ大陸4園合同サッカー大会】

～ 第7回サッカーチャンピオンズカップ ～

キッズ大陸4園で統一スポーツプログラムとして実施しているサッカープログラムの成果発表の場として、年に一度、各園が一堂に会して開催しています。また、本学園のスケールメリットを活かし、リゾート&スポーツ専門学校やこども専門学校の学生も大会運営に参加しました。



(6) 分野別産学連携事業と職業実践専門課程への取組み

本学園では、企業との連携により実務に関する知識、技能・技術を享受し、職業に必要な実践かつ専門的な能力育成のため、各分野で様々な産学連携プロジェクトを実施しています。

また、産学連携以外にも業界の企業や業界団体の専門家で構成された『教育課程編成委員会』を設置し、各分野のカリキュラムや教育活動を討議・編成し、社会の要請に応えた実践的な職業教育を実施しています。2013年に施行された『職業実践専門課程』は、最新の実務知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取組む学科の課程認定制度です。2024年度までに59校84学科が認定されました。今後も学生等の習学の質的向上を図るため、設置校全校で当該認定の取得を目指していくとともに、更に産学連携の強化・推進を図っていきます。

【医科校】(職業実践専門課程)

協力医療機関において、1年次に1週間、2年次に3週間、計4週間にわたり医療機関実習を実施しています。本実習は、医療現場における実践的な技術の習得および医療従事者に求められる適切な行動や責任感の醸成を目的としています。実習期間中は担当教員が当該医療機関

を訪問し、あらかじめ設定した目標である「実務能力・応用力」「医療現場で必要とされるマナー・人間関係構築能力」「勤務態度や患者への接遇能力」について、協力医療機関と確認・情報交換を行っています。これらの取組みにより、現場の声を反映した実践的な人材育成を推進しています。

【リゾート&スポーツ校】（産学連携）

全国に多数のスポーツクラブを運営する企業および各地域のプロスポーツ団体と提携し、学びの充実および実践力の向上を目的とした教育プログラムを展開しております。特に「総合演習」科目においては、本校施設等を活用し、地域住民の方々に向けたトレーニングプログラムの提供やスタジオエクササイズの実施など、実践的な学習機会を積極的に創出してまいりました。これらの取組を通じて、学生は知識・技術の習得にとどまらず、対象者に応じたプログラム提供や適切なコミュニケーションの重要性を理解し、コーチングスキルの向上を図ることができました。今後も学びのアウトプットの機会を継続的に設け、実践力のさらなる強化を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを推進していきます。



【こども校】（職業実践専門課程）

1年次の2月以降から児童福祉施設（保育園や乳児院など）にて『保育実習』を行います。10日間（80時間）の実習を計3回行い、3回目の実習では子ども達が登園してから降園するまでの1日全てを任せられる実践的な実習を行っています。



【ウェディング&ブライダル校】（産学連携）

全国各地で式場やドレスショップ、ブライダルヘアメイクサロンを展開されている企業と連携し、将来ブライダル業界で活躍できる人材の育成を目的として、発想力・提案力・問題解決力の醸成に取り組んでいます。その一環として、「ブライダル業界への新たなウェディングプラン」および「自分らしさを十分に引き出す花嫁」をテーマとしたプレゼンテーションプログラムを実施しました。また、企業に審査員を務めていただき、総評をいただくことで、より現場に即した実践的な力を身に付ける貴重な機会となっています。



【スイーツ&カフェ校】（産学連携）

各地域の企業と職業教育提携を締結し、企業から提示されたテーマや地域課題の解決に向けて、商品開発プレゼンテーションを実施しています。毎年、学生主体でメニュー考案に取り組んでいます。これまでに、株式会社プロントコーポレーション、JA（農業協同組合）、株式会社そごう・西部、富士コーヒー株式会社と連携し、テーマ設定や原価、オペレーション等を踏まえた企業による審査を経て、商品化に向けた取組みを行ってきました。2025年度は、ケーキ専門のECサイトを運営する株式会社Cake.jpと連携し、サイト登録、商品告知、梱包、発送までの一連の工程を学ぶとともに、学生が考案したケーキを全国に向けて販売しました。



【東京未来大学】（産学連携）

① まち歩きマップ作成プロジェクト

11月8日（土）、「千住まち歩きマップ」作成プロジェクトを実施しました。本プロジェクトは、北千住駅周辺の空き家や古民家を再生した施設等を掲載したマップの作成を目的として、森下研究室と足立区生涯学習センターとの共同により実施したものです。作成したマップを活用し、地域の方々とともに「まち歩き」を行うことで、学生を含む多世代間の交流を深める機会となりました。



② 商品開発プロジェクト

3月28日（土）・29日（日）に開催された「舎人公園千本桜まつり」において、学生と事業者が共同で開発した商品の販売を行いました。本プロジェクトは、足立成和信用金庫との連携による商品開発企画として実施し、モチベーション行動科学部のプロジェクトゼミにおいて和菓子を開発しました。

さらに、2学部合同の商品開発プロジェクト「Mirise kitchen car（ミライズキッチン



カー)」にて、全3種の商品を開発しました。本番前の試食会では、足立成和信用金庫の職員をはじめ、本学の学生および教員が参加し、商品改良に向けた意見交換を行いました。

また、商品の見映えや価格設定、販促用POPの作成、SNSを活用した集客戦略の検討にも取り組みました。桜まつり当日は、2店舗において販売および接客を実施し、実践的な学びの機会となりました。



【小田原短期大学】（産学連携・専門学校との連携）

① 小田急小田原駅とのイベント開催

本学学生と小田急小田原駅に勤務している若手社員が共同で企画したイベント「おだたん×おだきゅう～巡って“探求”小田原駅から出発進行～」を11月に実施しました。学生手作りの缶バッジ制作や輪投げゲーム、アナウンス体験、駅員になりきる撮影ブースなど、子ども向けの多様な企画を展開し、地域の来場者に楽しんでいただく機会となりました。



② イトーヨーカドー小田原店との連携

小田原短期大学とイトーヨーカドー小田原店が連携し、「春のお花見弁当」を商品化しました。本企画では、食物栄養学科の中村ゼミがレシピを考案し、同店において商品化・店頭での限定販売が行われました。産学連携による実践的な学びの機会となりました。



③ SANKO E-1 グランプリ

SANKO E-1 グランプリは、本学および姉妹校である辻学園栄養専門学校の栄養士を目指す学生が、設定されたテーマに基づき、多様な食材を活用して給食の献立作成および調理を行い、知識と技術を競うコンテストです。2025年度は、社員食堂部門および園児食部門の両部門において、本学チームがグランプリを受賞しました。

【社員食堂部門：森のごちそうランチ】 【園児食部門：おにぎりと冬のぼうけんランチ】



④ 新学科「ライフデザイン総合学科」開設

本学のライフデザイン総合学科通信教育課程は2025年8月に文部科学省大学設置・学校法人審議会において設置を「認可」する旨の答申がなされ、2026年4月に開設いたします。



ワクワクとらわれない、ワクワクを。

小田原短期大学
通信教育課程 ライフデザイン総合学科

学科名称：ライフデザイン総合学科

学位分野：家政関係

テーマ：生活、IT、WEBデザイン、プログラミング、ビジネス、マーケティング、ファッション、ビューティーなど

教育課程：通信教育課程(2年課程)

定員：入学定員400名、収容定員800名

【高校分野】(産学連携)

① 墨田区から世界に！「Sumida Teen

Style Experience」プロジェクト

9月26日(金)・27日(土)の2日間、墨田区と連携し、訪日観光客に向けた日本文化発信イベントを実施しました。飛鳥未来きぼう高等学校両国キャンパスの生徒14名が企画・運営に参加しました。本取組では、生徒が主体となり、浴衣の着付けやメイク(アイドル系・地雷系)等の日本文化の発信内容を検討

し、当日の運営も担いました。また、海外参加者への対応に向けて、レイクランド大学の協力のもと英語でのコミュニケーションに関する指導を受け、事前実践的な準備を行いました。当日は、12か国以上・計31名の訪日観光客が参加し、生徒との交流が行われました。本取組を通じて、生徒の日本文化への理解の深化および実践的な運営経験の習得につながりました。



② プロバスケットボールチーム「ベルテックス静岡」の試合ボランティアに参加

12月7日(日)に開催されたプロバスケットボールチーム「ベルテックス静岡」の試合において、飛鳥未来きぼう高等学校静岡キャンパスの生徒約20名がボランティアとして参加し、チームスタッフや一般ボランティアと連携のうえ、試合運営補助および会場誘導等を担当しました。また、屋外の子ども向け体験ブースではフリースロー体験の運営補助を行い、来場者対応に従事しました。本取組を通じて、生徒の主体性や対人対応力の向上につながる機会となりました。



【みらい中学校】（自治体との連携）

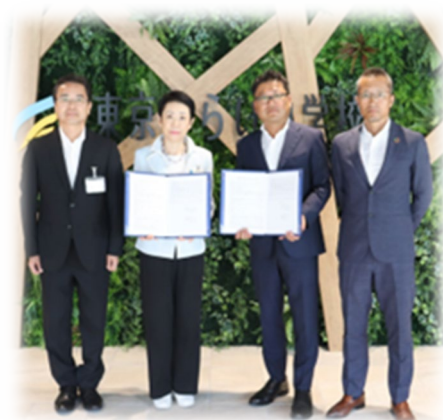
東京都足立区との連携協定について

本学園と東京都足立区は、8月9日（金）に、不登校児童生徒に対する多様な学びの構築・展開を目的として、包括的な連携・協力に関する協定を締結しました。

今後は、足立区と連携し、不登校生徒に対するキャリア教育の推進やICTを活用した学習支援を中心とした取組みを推進していきます。

～東京都足立区との連携・協力事項～

- (1) 多様な民間のノウハウを区に活かす相互交流
- (2) ICTの活用による学習支援方法の共有
- (3) 不登校生徒のキャリア教育
- (4) その他の不登校対策および若年者の学びや就労のために甲乙が協議して定めた支援



【ぼけっとランド保育園】（専門学校との連携）

こども専門学校の授業の一環として、園児を専門学校に招き、運動あそびを実施しました。園児一人ひとりの発達に応じ、月齢に適した運動あそびを提供することで、それぞれが無理なく楽しめる内容としました。

また、本取り組みは専門学校における「健康」と「身体表現」の授業の実践として位置づけられており、学生はこどもの発達への理解を深めながら、遊びを通じた運動機能の向上を支援しました。最後には、頑張った園児たちにメダルをプレゼントしました。

今後も、保育園が教育施設としての役割を果たすため、専門学校との連携を深め、園児とともに学生も成長できる取組みを積極的に推進してまいります。



Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

教育環境としては、新校舎に伴う土地関連支出1,381百万円、建物建築関連支出1,099百万円、設備・備品関連支出259百万円、校舎等の修繕等264百万円、計3,003百万円の整備を行いました。

財務面では、生徒数の増加に伴い学生生徒納付金収入等が大きく増収し、事業活動収入合計は前期比5,138百万円増加の64,447百万円となり、過去最高を記録しました。一般企業の経常利益および純利益にあたる経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額は、各々10,066百万円、7,915百万円となりました。なお、教育環境の整備を積極的に行った結果、第1号基本金は169,188百万円残高となりました。

今後とも、財務の健全性を確保しつつ、教育環境の改善への資産配分を行い、魅力ある教育の提供と質的向上を図っていきます。

なお、企業会計は正しい損益状況と企業の営業成績および財産状況を説明することを目的として「損益計算書」、「貸借対照表」を作成しますが、学校法人会計は、学校経営における教育研究活動の健全性の程度を財務面から測定し開示することを目的として以下のとおり「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」「貸借対照表」を作成します。

(1) 貸借対照表関係

貸借対照表は、年度末時点における資産、負債、正味資産（基本金、消費収支差額）の内容、あり高を示し、学校法人の財務状況を明らかにするものです。

《資産の部》

資産の部合計は、217,837百万円となり、前年度より10,285百万円の増加となりました。主な増加要因として、特定資産が5,600百万円増加しており、これは主に減価償却引当特定資産の積立により5,000百万円増加したことによるものです。また、有形固定資産について積極的な教育投資を行った結果、土地が1,462百万円増加しました。

その他の固定資産は、保証金・敷金が122百万円、保険積立金が61百万円増加し、全体で137百万円の増加となりました。流動資産は、未収入金が602百万円減少しましたが、現預金が6,637百万円、有価証券が99百万円増加し、全体では5,951百万円の増加となりました。

《負債の部》

負債の部合計は、45,352百万円となり、前年度より2,370百万円増加となりました。主な内訳として、固定負債は長期借入金等が1,138百万円減少しました。流動負債は、生徒数の増加に伴う前受金の増加もあり3,536百万円増加となりました。

《純資産の部》

純資産の部は基本金と繰越収支差額で構成されています。基本金は設備投資の増加から第1号基本金が3,510百万円増加しました。第4号基本金は232百万円の増加となり、基本金合計は3,742百万円増加の172,929百万円となりました。繰越収支差額は444百万円の支出超過となり、結果、純資産の部は172,485百万円となりました。

【貸借対照表】

■資産の部				■負債の部			
(単位:百万円)				(単位:百万円)			
科目	2024年度	2025年度	増減	科目	2024年度	2025年度	増減
固定資産	163,492	167,826	4,334	固定負債	5,604	4,438	△ 1,166
有形固定資産	137,983	136,578	△ 1,404	長期借入金	5,402	4,264	△ 1,138
土地	57,911	59,373	1,462	退職給与引当金	202	174	△ 28
建物	76,289	73,817	△ 2,472	流動負債	37,378	40,914	3,536
備品ほか	3,783	3,388	△ 395	短期借入金	1,388	1,138	△ 250
特定資産	19,589	25,190	5,601	未払金	3,770	3,825	54
その他の固定資産	5,920	6,058	137	前受金	30,316	31,511	1,196
保険積立金	1,824	1,886	61	その他の流動負債	1,904	4,440	2,536
その他	4,096	4,172	76	負債の部合計	42,982	45,352	2,370
流動資産	44,059	50,011	5,951				
現金預金	41,008	47,645	6,637				
その他の流動資産	3,051	2,366	△ 685				
資産の部合計	207,552	217,837	10,285				
				■純資産の部 (単位:百万円)			
				科目	2024年度	2025年度	増減
				第1号基本金	165,677	169,188	3,510
				第4号基本金	3,509	3,741	232
				基本金合計	169,186	172,929	3,742
				翌年度繰越収支差額	△ 4,617	△ 444	4,173
				繰越収支差額合計	△ 4,617	△ 444	4,173
				純資産の部合計	164,569	172,485	7,915
				負債及び純資産の部	207,552	217,837	10,285

※百万円未満は四捨五入

※上記表の金額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

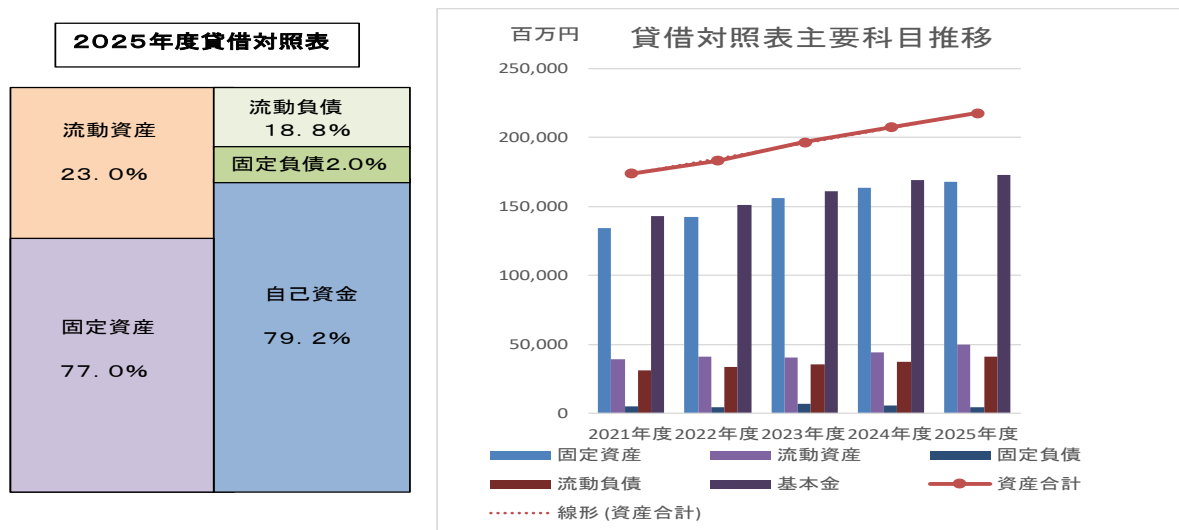
① 貸借対照表5ヶ年比較

(単位:百万円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産	134,452	142,194	156,249	163,492	167,826
有形固定資産	120,718	125,290	135,093	137,983	136,578
特定資産	8,995	12,178	15,648	19,589	25,190
その他の固定資産	4,739	4,726	5,508	5,920	6,058
流動資産	39,649	41,135	40,329	44,059	50,011
資産合計	174,102	183,330	196,578	207,552	217,837

固定負債	5,431	4,429	7,006	5,604	4,438
流動負債	31,327	33,725	35,427	37,378	40,914
負債合計	36,758	38,155	42,433	42,982	45,352
基本金	142,775	151,017	161,318	169,186	172,929
繰越収支差額	△ 5,431	△ 5,842	△ 7,174	△ 4,617	△ 444
負債、基本金、消費収支差額合計	174,102	183,330	196,578	207,552	217,837

※百万円未満は四捨五入
 ※新会計基準に基づき記載しております。



※上記表の金額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

② 貸借対照表関係比率の経年比較 (過去5年)

比率	算式 (×100)	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
固定資産構成比率	固定資産 — 総資産	77.2%	77.6%	79.5%	78.8%	77.1%
	流動資産 — 総資産	22.8%	22.4%	20.5%	21.2%	23.0%

固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	3.1%	2.4%	3.6%	2.7%	2.0%
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	18.0%	18.4%	18.0%	18.0%	18.8%
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	78.9%	79.2%	78.4%	79.3%	79.2%
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	97.9%	97.9%	101.4%	99.3%	97.2%
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	94.2%	95.0%	97.0%	96.1%	94.8%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	126.6%	122.0%	113.8%	117.9%	122.2%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	21.1%	20.8%	21.6%	20.7%	20.8%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	26.8%	26.3%	27.5%	26.1%	26.3%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	121.7%	122.0%	120.5%	135.3%	151.2%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.8%	98.6%	97.0%	98.1%	99.0%

(2) 事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書は、当該会計年度の3つの活動（教育活動、教育以外の経常的な活動、それ以外の活動）に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入と事業活動支出の均衡状態を示すものです。

<内容の要点>

【教育活動収支】

教育活動収支は、当該会計年度の経常的な事業活動収支のうち、経常的な財務活動および収益事業に係る活動を控除した活動の収支をあらわしたものです。

教育活動収入合計は、61,343百万円となり、前年度より5,849百万円の増加となりました。主な増収要因は、学生生徒納付金収入が3,028百万円増加によるものです。教育活動支出の合計は、54,278百万円となり、前年度より5,635百万円の増加となりました。主な増加要因は人件費が1,428百万円の増加、教育研究経費が3,471百万円の増加、管理経費が705百万円の増加となっています。

なお、教育活動収入から教育活動支出を控除した教育活動収支差額は7,066百万円となりました。

【教育活動外収支】

教育活動外収支は、教育活動以外の経常的な財務活動および収益事業に係る事業活動収入ならびに事業活動支出をあらわしたものです。

受取利息・配当金収入は3,051百万円を計上し、教育活動外収入は前年度より891百万円増加しました。教育活動外支出は51百万円となり、教育活動外収入から教育活動外支出を控除した教育活動外収支差額は3,001百万円となりました。

【経常収支差額】

経常収支差額は一般企業における経常利益にあたり、学校法人が教育活動を行うにあたり経常的に発生する収入と支出の均衡、事業実態、継続性をあらわしたものです。

経常収支差額は10,066百万円となり、前年度より1,090百万円増加しました。

【特別収支の部】

特別収支は、経常的な事業活動以外に特殊な要因によって発生した事業活動の収支をあらわしたものです。

今年度の特別収入合計は、52百万円となりました。特別支出は賞与引当金特別繰入額の計上から、2,204百万円となりました。なお、特別収入合計から特別支出合計を控除した特別収支差額は2,151百万円の支出超過となりました。

【基本金組入前当年度収支差額と基本金】

学校法人は、教育研究活動を永続的に行う上で必要な資産の更新・拡充のための資金を基本的に自前で調達する必要があるため、これを維持するための財務的な仕組みとして基本金制度があります。基本金組入前当年度収支差額は一般企業の当年度純利益にあたります。ここから毎年度に発生した教育研究維持に必要な資金・基本金を差引き、長期的な収支バランスをみています。

基本金組入前収支差額は7,915百万円となり、前年度より、2,510百万円減少しました。ここから3,864百万円の基本金を組入れした結果、当年度収支差額は4,051百万円の支出超過となりました。

科目等		2025年度予算	2025年度決算	増減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	46,384	46,104	281
		手数料	502	577	△ 76
		寄付金	219	225	△ 6
		経常費等補助金	9,426	9,577	△ 151
		国庫補助金	379	373	5
		地方公共団体補助金	6,427	6,581	△ 154
		その他補助金	2,620	2,622	△ 2
		付随事業収入	4,320	4,355	△ 35
		雑収入	418	506	△ 88
		教育活動収入計	61,268	61,343	74
	事業活動支出の部	人件費	23,039	22,682	357
		教育研究経費	20,887	20,914	△ 27
		管理経費	10,815	10,617	198
		徴収不能額等	463	65	398
教育活動支出計	55,204	54,278	926		
教育活動収支差額		6,064	7,066	△ 1,001	

※百万円未満は四捨五入

(単位:百万円)

科目等		2025年度予算	2025年度決算	増減	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	2,546	3,051	△ 506
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2,546	3,051	△ 506
	支出の部	借入金等利息	48	51	△ 3
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	48	51	△ 3
教育活動外収支差額		2,498	3,001	△ 503	
経常収支差額 ※1		8,562	10,066	△ 1,504	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	32	52	△ 21
		特別収入計	32	52	△ 21
	支出の部	資産処分差額	51	133	△ 82
		その他の特別支出	2,068	2,071	△ 2
		特別支出計	2,119	2,204	△ 85
特別収支差額		△ 2,087	△ 2,151	64	
基本金組入前 当年度収支差額 ※2		6,475	7,915	△ 1,440	
基本金組入額合計		△ 3,039	△ 3,864	825	
当年度収支差額		3,436	4,051	△ 615	
前年度繰越収支差額		△ 4,617	△ 4,617	0	
基本金取崩額		0	122	122	
翌年度繰越収支差額		△ 1,181	△ 444	△ 737	

事業活動収入計	63,845	64,447	△ 602
事業活動支出計	57,371	56,532	839

※1 経常収支差額

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計額を表し、学校法人の経常的な事業活動を表す重要な指標

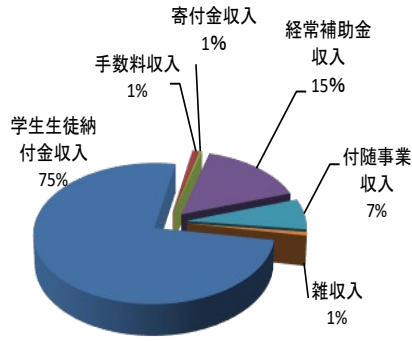
※2 基本金組入前収支差額

事業活動収入計から事業活動支出計を差引いた数値を表し、学校法人全体の事業活動を表す重要な指標

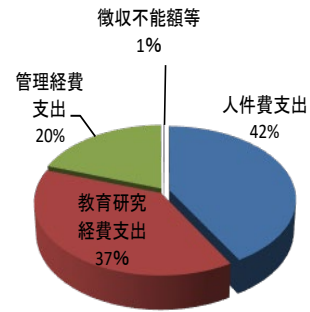
※3 ※百万円未満は四捨五入

※上記表の金額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

教育活動収入 61,343百万円

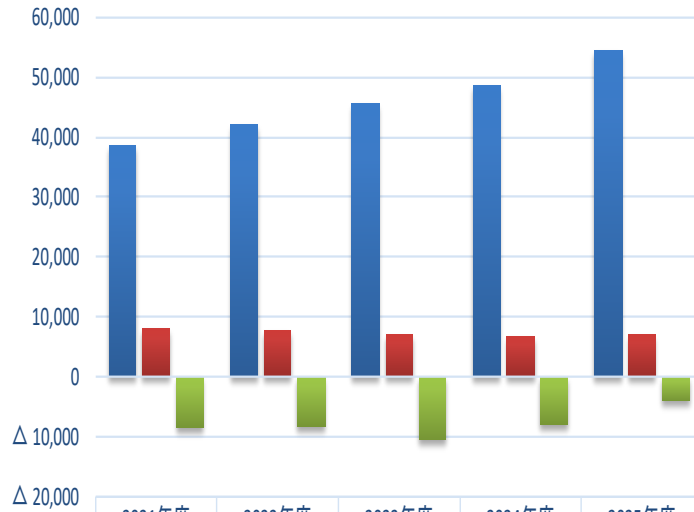


教育活動支出 54,278百万円



主要計数推移

百万円



	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
■教育活動支出	38,650	42,119	45,643	48,642	54,278
■教育活動収支差額	8,080	7,866	7,028	6,851	7,066
■基本金組入額	△ 8,503	△ 8,260	△ 10,326	△ 7,968	△ 3,864

事業活動収支5ヶ年比較

(単位:百万円)

科目		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	36,140	38,541	40,786	43,076	46,104
		手数料	447	485	513	517	577
		寄附金	196	213	189	217	225
		経常費等補助金収入	5,918	6,385	6,791	7,081	9,577
		付随事業収入	3,728	3,897	4,093	4,201	4,355
		雑収入	301	463	299	402	506
		教育活動収入計	46,731	49,985	52,671	55,494	61,343
	事業活動支出の部	人件費	17,337	18,461	20,152	21,254	22,682
		教育研究経費	13,906	15,121	16,227	17,443	20,914
		管理経費	7,345	8,442	9,218	9,912	10,617
		徴収不能額等	63	96	45	34	65
		教育活動支出計	38,650	42,119	45,643	48,643	54,278
	教育活動収支差額		8,080	7,866	7,028	6,851	7,066
	教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	1,580	1,664	1,637	2,160
その他の教育活動外収入			427	434	325	0	0
教育活動外収入計			2,006	2,098	1,962	2,160	3,051
支出の活動		借入金等利息	11	8	7	34	51
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	11	8	7	34	51
教育活動外収支差額		1,996	2,090	1,955	2,126	3,001	
経常収支差額		10,076	9,956	8,983	8,977	10,066	
特別収支	収入の活動	資産売却差額	600	203	0	805	0
		その他の特別収入	72	9	448	849	52
		特別収入計	672	212	448	1,655	52
	支出の活動	資産処分差額	66	2,211	430	69	133
		その他の特別支出	21	125	32	137	2,071
		特別支出計	87	2,337	462	206	2,204
	特別収支差額		585	△ 2,125	△ 14	1,448	△ 2,151
基本金組入前当年度収支差額		10,661	7,832	8,969	10,425	7,915	
基本金組入額		△ 8,503	△ 8,260	△ 10,326	△ 7,968	△ 3,864	
当年度収支差額		2,159	△ 428	△ 1,357	2,457	4,051	
前年度繰越収支差額		△ 7,602	△ 5,431	△ 5,842	△ 7,174	△ 4,617	
基本金取崩額		12	18	25	100	122	
翌年度繰越収支差額		△ 5,431	△ 5,842	△ 7,174	△ 4,617	△ 444	
(参考)							
事業活動収入合計		49,409	52,295	55,081	59,308	64,447	
事業活動支出合計		38,748	44,463	46,112	48,883	56,532	

※百万円未満は四捨五入

※上記表の金額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

事業活動収支計算書関係比率（過去5年）

比率	算式（×100）	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	35.6%	35.4%	36.9%	36.9%	35.2%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒納付金}}$	48.0%	47.9%	49.4%	49.3%	49.2%
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究費}}{\text{経常収入}}$	28.5%	29.0%	29.7%	30.3%	32.5%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	15.1%	16.2%	16.9%	17.2%	16.5%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	21.6%	15.0%	16.3%	17.6%	12.3%
学生生徒納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	74.2%	73.9%	74.7%	74.7%	71.6%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.4%	0.4%	0.3%	0.4%	0.3%
経常補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{経常収入}}$	12.1%	12.3%	12.4%	12.3%	14.9%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	17.2%	15.8%	18.7%	13.4%	6.0%
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{経常支出}}$	8.1%	7.8%	6.8%	7.7%	7.5%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	20.7%	19.1%	16.4%	15.6%	15.6%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入}}$	17.3%	15.7%	13.3%	12.3%	11.5%

（3）資金収支計算書関係

① 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の教育活動およびそれに付随する諸活動に対応する全ての収入に関して、その内容を明らかにし、支払資金の収支の顛末を明らかにするための計算書類です。

当該計算書には、事業活動収支計算書にはない設備投資額や他からの収入などの一切が記録・明記されています。主の要点は以下のとおりとなります。

<内容の要点>

《収入の部》

当年度の収入合計は、117,738百万円となり、前年度繰越支払資金41,008百万円を加えた収入の部合計は158,746百万円となりました。

【学生生徒納付金収入】

学生生徒納付金収入は、入学者数の増加から、在籍生徒数が60,308名（前年度比3,726名増加）となり、46,104百万円（前年度比3,028百万円増加）となりました。

【補助金収入】

補助金収入は9,600百万円となりました。今年度の補助金内訳は、大学229百万円、短期大学145百万円、専門学校4,881百万円、高等学校・支援学校・中学校641百万円、保育園3,704百万円となっています。

【資産売却収入】

主に、短期有価証券運用によるものです。

【付随事業・収益事業収入】

付随事業・収益事業収入の合計は4,355百万円となりました。うち附帯事業収入424百万円、受託事業収入199百万円となっています。

【寄付金収入】

一般寄付金収入には、三幸共済会からの寄付金収入114百万円が含まれています。また、特別寄付金収入には、受配者指定寄付金収入100百万円が含まれています。

【前受金収入】

前受金収入は、2025年度の入学金、授業料、施設設備費等の収入を計上しています。2025年度入学者を含む在籍生徒数の増加から、前受金収入は31,511百万円（前年度比1,196百万円増加）となりました。

【資金収入調整勘定】

当該科目の内訳は、期末未収入金1,145百万円、前期末前受金30,316百万円となっています。

【前年度繰越支払資金】

当該科目は、全て前年度末の現預金となっています。

《支出の部》

当年度支出の合計は、111,101百万円となり、翌年度繰越支払資金47,645百万円を加えた支出の部合計は158,746百万円となりました。

【人件費支出】

人件費は22,482百万円となり、うち教員人件費は15,168百万円、職員人件費は7,112百万円となっています。

【教育研究経費支出】

教育研究経費は、17,030百万円となりました。うち奨学費として6,031百万円、施設設備の修繕費として264百万円を計上しています。

【管理経費支出】

管理経費は、10,339百万円となりました。うち教職員の研修に係る費用として345百万円が含まれています。

【施設関係支出・設備関係支出】

施設関連支出は2,480百万円となりました。主な内訳は、土地1,381百万円、建物支出563百万円、建設仮勘定支出526百万円となっています。

設備関係支出は、259百万円となりました。主な内訳は教育研究用機器備品支出213百万円、管理用機器備品支出26百万円、図書支出8百万円、ソフトウェア10百万円となっています。

【資産運用支出】

主に短期有価証券の運用にかかる支出となります。内訳は有価証券購入支出として25,099百万円、保険金積立金支出として603百万円、修繕費積立特定資産支出として605百万円の支出がありました。

【資金支出調整勘定】

当該科目の内訳は、前期末前払金128百万円、期末未払金3,811百万円となっています。なお、期末未払金には、当年度2月、3月に発生した教材等の費用が含まれています。

【次年度繰越支払資金】

当該科目は、全て当年度末の現預金となっています。

【資金収支計算書】

(単位:百万円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差額	科目	予算	決算	差額
学生生徒納付金収入	46,384	46,104	281	人件費支出	22,709	22,482	228
手数料収入	502	577	△ 76	教育研究経費支出	17,227	17,030	197
寄付金収入	218	223	△ 5	管理経費支出	10,616	10,339	276
補助金収入	9,450	9,600	△ 150	借入金等利息支出	48	51	△ 3
国庫補助金収入	379	390	△ 11	借入金等返済支出	1,388	1,388	0
地方公共団体補助金収入	6,451	6,587	△ 137	施設関係支出	2,541	2,480	62
その他の補助金収入	2,620	2,622	△ 2	設備関係支出	266	259	7
資産売却収入	20,468	10,542	9,926	資産運用支出	25,895	26,307	△ 412
付随事業・収益事業収入	4,320	4,355	△ 35	その他の支出	60,301	34,705	25,595
受取利息・配当金収入	2,546	3,051	△ 506				
雑収入	413	498	△ 85				
借入金等収入	0	0	0				
前受金収入	31,693	31,511	182				
その他の収入	58,051	42,736	15,315				
資金収入調整勘定	△ 31,245	△ 31,461	216	資金支出調整勘定	△ 4,502	△ 3,939	△ 563
前年度繰越支払資金	41,008	41,008	0	次年度繰越支払資金	47,320	47,645	△ 325
収入の部合計	183,808	158,746	25,062	支出の部合計	183,808	158,746	25,062

※上記表の金額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

資金収支計算書5ヶ年比較

収入の部

(単位:百万円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学生生徒等納付金収入	36,140	38,541	40,786	43,076	46,104
手数料収入	447	485	513	517	577
寄付金収入	196	210	189	217	223
補助金収入	5,953	64	7,184	7,919	9,600
受取利息・配当金収入	1,580	1,664	1,637	2,160	3,051
資産売却収入	16,783	7,025	11,273	17,642	10,542
付随事業収・収益事業収入	3,728	3,897	4,093	4,201	4,355
雑収入	330	487	352	410	498
借入金等収入	0	0	4,000	0	0
前受金収入	25,533	27,613	28,592	30,316	31,511
その他の収入	30,545	17,850	26,013	38,025	42,736
資金収入調整勘定	△ 24,971	△ 26,360	△ 28,650	△ 30,320	△ 31,461
前年度繰越支払資金	31,740	31,070	33,678	34,458	41,008
収入の部合計	128,004	108,874	129,658	148,619	158,746

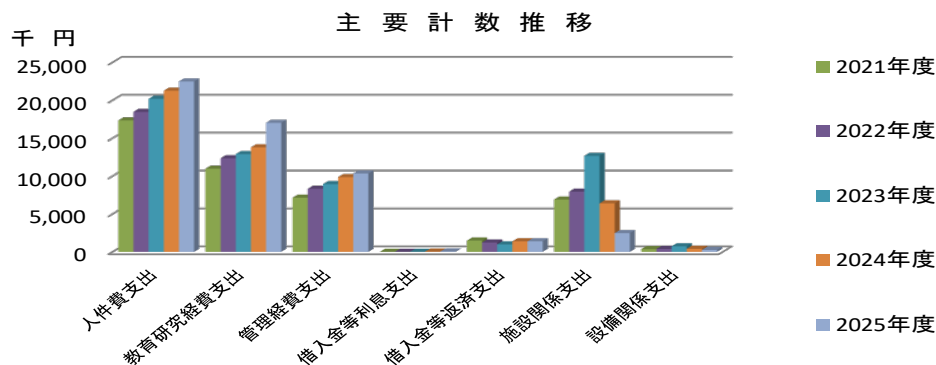
※百万円未満は四捨五入

支出の部

(単位:百万円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人件費支出	17,335	18,467	20,183	21,268	22,482
教育研究経費支出	10,976	12,345	12,899	13,799	17,030
管理経費支出	7,152	8,318	8,944	9,861	10,339
借入金等利息支出	11	8	7	34	51
借入金等返済支出	1,488	1,238	988	1,388	1,388
施設関係支出	6,901	7,949	12,668	6,404	2,480
設備関係支出	357	381	738	404	259
資産運用支出	23,836	9,597	14,662	20,402	26,307
その他の支出	31,600	20,210	27,689	37,861	34,705
資金支出調整勘定	△ 2,723	△ 3,315	△ 3,578	△ 3,811	△ 3,939
翌年度繰越支払資金	31,070	33,678	34,458	41,009	47,645
支出の部合計	128,004	108,874	129,658	148,619	158,746

※百万円未満は四捨五入



※上記表の金額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

② 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書

令和 7年 4月 1日から

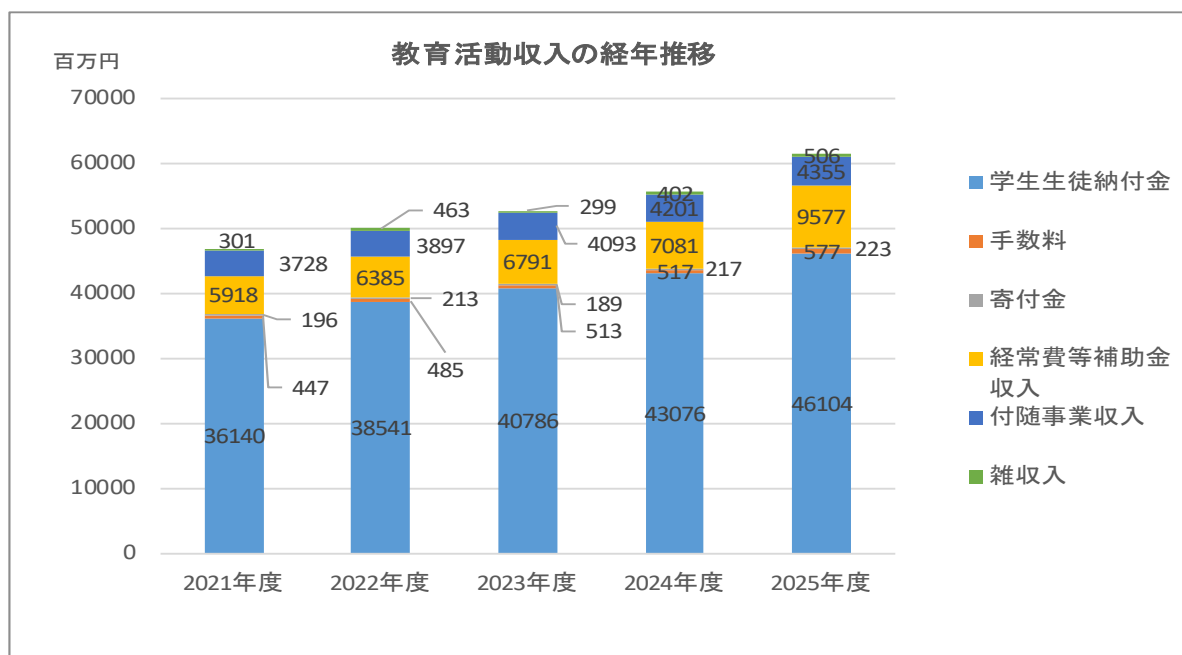
令和 8年 3月 31日まで

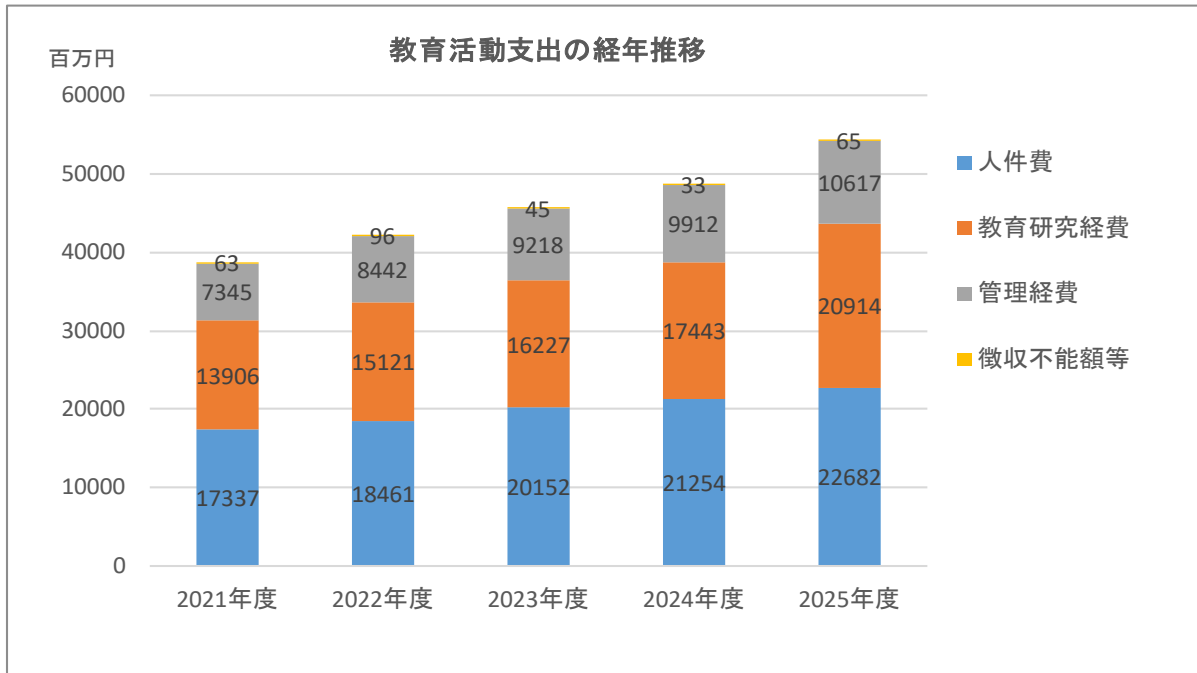
(単位 円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	46,103,702,702
		手数料収入	577,435,366
		特別寄附金収入	104,447,780
		一般寄付金収入	118,988,000
		経常費等補助金収入	9,576,968,589
		付随事業収入	4,354,659,684
		雑収入	487,384,924
		教育活動資金収入計	61,323,587,045
	支出	人件費支出	22,481,527,746
		教育研究経費支出	17,029,965,265
		管理経費支出	10,303,849,011
		教育活動資金支出計	49,815,342,022
		差引	11,508,245,023
	調整勘定等	970,939,298	
	教育活動資金収支差額	12,479,184,321	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	施設設備補助金収入	23,482,166
		施設設備売却収入	698,500
		施設整備等活動資金収入計	24,180,666
	支出	施設関係支出	2,479,667,446
		設備関係支出	259,190,036
		修繕費積立特定資産支出	605,000,000
		施設整備等活動資金支出計	3,343,857,482
		差引	△ 3,319,676,816
		調整勘定等	812,068,762
	施設整備等活動資金収支差額	△ 2,507,608,054	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		9,971,576,267	

		(単位 円)	
その他の活動による資金収支	収入	科 目	金 額
		有価証券売却収入	10,000,000,000
	保険積立金収入	541,598,587	
	卒業生支援特定資産取崩収入	4,111,000	
	仮受金受入収入	876,850,677	
	長期貸付金回収収入	297,261	
	生徒預り金受入収入	2,704,434,147	
	預り金受入収入	9,347,675,169	
	仮払金回収収入	2,964,193,733	
	保証金・敷金収入	33,039,530	
	預け金受入収入	25,099,430,217	
	小計	51,571,630,321	
	受取利息・配当金収入	3,051,385,403	
	過年度修正収入	10,457,165	
	その他の活動資金収入計	54,633,472,889	
	支出	借入金等返済支出	1,388,000,000
		有価証券購入支出	25,099,070,000
		保険積立金支出	603,052,575
		預り金支払支出	9,021,296,584
		仮払金支払支出	2,892,932,243
仮受金支払支出		848,205,695	
生徒預り金支払支出		2,773,873,010	
保証金・敷金支出		155,232,984	
預け金支払支出		15,099,420,547	
小計		57,881,083,638	
借入金等利息支出		50,510,953	
過年度修正支出		35,355,968	
その他の活動資金支出計		57,966,950,559	
差引		△ 3,333,477,670	
調整勘定等	△ 1,595,064		
その他の活動資金収支差額	△ 3,335,072,734		
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	6,636,503,533		
前年度繰越支払資金	41,008,071,753		
翌年度繰越支払資金	47,644,575,286		

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。				(単位 円)
項目	資金収支計算書計上額	教育活動による 資金収支	施設整備等活動による 資金収支	その他の活動による 資金収支
前受金収入	31,511,243,885	31,511,243,885	0	0
前期末未収入金収入	1,705,943,607	872,672,607	833,168,000	103,000
期末未収入金	△ 1,144,943,566	△ 1,144,548,566	0	△ 395,000
前期末前受金	△ 30,315,659,344	△ 30,315,659,344	0	0
収入計	1,756,584,582	923,708,582	833,168,000	△ 292,000
前期末未払金支払支出	3,756,916,918	3,720,568,502	34,146,352	2,202,064
前払金支払支出	157,373,213	157,373,213	0	0
期末未払金	△ 3,811,342,455	△ 3,797,396,341	△ 13,047,114	△ 899,000
前期末前払金	△ 127,776,090	△ 127,776,090	0	0
支出計	△ 24,828,414	△ 47,230,716	21,099,238	1,303,064
収入計 - 支出計	1,781,412,996	970,939,298	812,068,762	△ 1,595,064





(4) その他

① 財産目録

財 産 目 録
令和8年3月31日現在

(単位 円)

科 目	年 度 末		
一 資産額			
(一) 基本財産			
1 土地			
(1) 校地	89,105.14㎡	59,373,176,397	円
2 建物		73,816,784,909	円
(1) 校舎	262,173.07㎡	70,734,678,134	円
(2) 保育所	5,002.85㎡	2,310,692,965	円
(3) その他	4,793.99㎡	771,413,810	円
3 構築物		929,759,221	円
4 教育研究用機器備品	128,303 点	1,587,314,281	円
5 管理用機器備品	1,165 点	84,753,522	円
6 図書	261,255 冊	647,781,050	円
7 車輛	4 台	6,333,308	円
8 建設仮勘定		132,540,000	円
(二) 運用財産			
1 現金預金		47,644,575,286	円
(1) 現金		5,526,041	円
(2) 普通預金		47,639,049,245	円
2 積立金		25,189,939,000	円
(1) 減価償却引当特定資産		23,000,000,000	円
(2) 人件費積立特定資産		566,000,000	円
(3) 修繕積立引当特定資産		1,054,000,000	円
(4) 備品等購入引当特定資産		145,000,000	円
(5) 保育所施設・設備調整引当特定資産		415,000,000	円
(6) 卒業生支援特定資産		9,939,000	円
3 有価証券			
(1) 債券		299,070,000	円
(2) 株式		8,000,002	円
4 その他		5,736,105,721	円
(三) 収益事業会計資産			
1 流動資産		1,511,478,022	円
2 固定資産		1,833,276,869	円
合 計		218,800,887,588	円
二 負債額			
(一) 固定負債			
1 長期借入金		4,264,000,000	円
2 退職給与引当金		174,331,524	円
(二) 流動負債			
1 短期借入金		1,138,000,000	円
2 未払金		3,811,566,652	円
3 前受金		31,511,243,885	円
4 賞与引当金		2,250,470,854	円
5 その他		2,189,252,750	円
(三) 収益事業会計負債			
1 流動負債		572,012,999	円
合 計		45,910,878,664	円

② 収益事業会計決算

本学園の収益事業は、不動産事業、小田原市委託事業、学習支援事業として日本語学校、フリースクール事業、児童福祉事業として東京都認証保育所（ぽけっとランド）およびスポーツ教育コミュニティ事業（キッズ大陸）からなり、収益金はこども校などの設置校の教育研究活動に役立てられています。

ア 貸借対照表

資産の部合計は、3,358百万円となり、内訳は当該事業で運営する施設等の有形固定資産1,662百万円、ソフトウェア等の無形固定資産2百万円、保証金等の投資その他の資産169百万円、および現預金1,347百万円を含む流動資産1,525百万円となっております。

負債の部合計は、2,891百万円となり、内訳は前受金242百万円および未払金351百万円を含む流動負債728百万円、および固定負債（法人からの長期借入金）2,163百万円となっております。

純資産の部合計は467百万円となり、自己資本比率は13.9%、固定長期適合率は69.7%となりました。

イ 損益計算書

営業収益は、入園者数が増加したことにより、2,590百万円（前期比110百万円の増加）となりました。利益面では、営業利益43百万円、経常利益80百万円を計上し、当期純利益は46百万円となっております。

貸借対照表(要約) (単位:百万円)

科 目	本年度	科 目	本年度
流 動 資 産	1,525	流 動 負 債	728
有 形 固 定 資 産	1,662	固 定 負 債	2,163
無 形 固 定 資 産	2	元 入 金	61
投 資 其 他 の 資 産	169	繰 越 利 益 剰 余 金	406
資 産 合 計	3,358	負 債 ・ 純 資 産 合 計	3,358

※百万円未満は四捨五入

損益計算書(要約) (単位:百万円)

科 目	決 算
営 業 収 益	2,590
営 業 費 用	2,401
販 売 管 理 費	146
営 業 利 益	43
営 業 外 収 益	43
営 業 外 費 用	6
経 常 利 益	80
特 別 損 益	▲ 34
当 期 利 益	46

※百万円未満は四捨五入

IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

1. 関係する決議の概要

学校法人三幸学園内部統制システム整備の基本方針のリスク管理体制において、リスク管理規程及びリスク・危機対策マニュアルに基づき、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にするとともに、リスク管理についてはリスク管理委員会が一元的に行い、重要リスクが漏れなく適切に管理されているかを監事及び監査室が適宜監査を実施するよう改定しました。

また理事会は、毎年、業務執行に関するリスクを特定し、見直すとともに、リスク管理体制についても見直すことを規定しました（2026年3月25日開催：学校法人三幸学園理事会）。

2. 体制及び運用状況の概要

（1）理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書管理において決裁文書の取扱い及び保存、廃棄処分の方法に関して整備するため文書管理規程及び文書保存規程を改定しました（2026年3月16日開催：学校法人三幸学園専門学校等常任理事会）。

（2）損失の危機の管理に関する規程その他の体制

リスク管理の対象において、新たに経営戦略等に関するリスク区分及び財務関するリスク区分を設ける等、対象リスク見直しに伴いリスク管理規程を改定しました（2026年3月25日開催：学校法人三幸学園理事会）。

（3）理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

組織変更に伴い業務分掌の制定及び見直しを行うため、組織規程及び職務権限規程を改定しました（2026年2月9日開催：学校法人三幸学園専門学校等常任理事会）。

（4）職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

コンプライアンスの統制方針及び体制、手順等の管理において、就業規則の改定に基づきコンプライアンスにおける表彰・懲罰規定を整備するため、コンプライアンス管理規程及びコンプライアンス委員会規程を改定しました（2026年3月25日開催：学校法人三幸学園理事会）。

（5）監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

学校法人三幸学園寄附行為及び監事監査規程に基づき、監事の監査が実効的に行われる体制を確保しています。

附属明細書

2025（令和7）年度事業報告書の内容を補足する重要な事項はないため、附属明細書に記載すべき事項はありません。

以上